2022年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅱ	担当者:鬼頭弥生・彦坂 美希	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育士
この授業科目では、赤ちゃんについての基礎的な知識と乳児保育の実践の場で求められる保育技術を実践的に学ぶことができるようにする【AL】

乳児及び1歳以上3歳未満児の姿を十分に認識し、乳児及び1歳以上3歳未満の子どもがが有能な存在であることを理解する等、乳児保育の基本について考える。講義を聞くことに留まらず、調べ学習や討論などを行い、乳児保育に対する自分の考えやあり方をまとめ、乳児保育についての保育観を伝えることができるようにする。

授業の到達目標
　保育現場における乳児及び1歳から3歳未満児の保育に関する基本的事項や保育のねらいや内容について考え、保育を実際に展開できるような乳児保育における基本的な保育の力(理論習得、保育の実際の方法、教材の研究等) を身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　赤ちゃんへの関心を深めるために、図書館などで、乳児保育の最新情報を入手する。自分がどんな保育がしたいのか、考えるために身近なところでボランティアなど自主的に行うようにする。
座学で学んだことは、必ず復習するようにして、最新的な知識や技術を習得できるように努力する。
主体的な学びを重視するので、小レポート作成や、調べたものを発表する時間を設定して、アクティブに学ぶ機会を多く取り入れる。

評価方法
事前事後学習や授業参加態度・発表40%　授業の振り返り20%　提出物・確認テスト40%

教科書	参考図書 保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
調べ学習や授業の振り返り、小レポートは、毎回提出を求める。
事前準備が必要なことについてはmoodleまたは授業内で随時連絡をする。

01	イントロダクション　赤ちゃんにとって遊びとは
02	発達に応じたあやし遊び・ふれあい遊び
03	赤ちゃんが喜ぶ遊び（手作り玩具を作る）
04	赤ちゃんが喜ぶ遊び（手作り玩具で遊ぶ） 乳児保育の基本　　0歳児の子どもと保育
05	乳児の気持ちを読み取る視点(事例検討)
06	乳児の育ちを促す応答的な関わり
07	保護者と子どもの育ちを共有する連絡帳の捉え方
08	まとめ　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:障害児保育	担当者:山下 直樹・亀山 洋光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】障害児入所施設児童指導員
本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障害のある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。

保育現場において、障がいを持つ子どもへの理解を深めるために、ここではまず障がいをどのように捉えるのかについて学びます。また、保育現場でよく出会う発達障がいを中心に障がいの特徴や保育現場でできる支援について事例や体験を多く取り入れながら学んでいきます。

授業の到達目標
この授業では、保育者として必要不可欠である、障がいを持つ子どもに対しての理解を深めることを目的とします。また、障がいを持つ子どもを取り巻く理念等の理解を深め、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
障がいを持つ子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
小林徹・栗山宣夫「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」　株式会社　みらい	授業時にお知らせします

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学修が進んでいくと「障がいとは？」「人間とは？」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

01	障がい児保育とは～障がい児保育における「あたり前なこと」と「特別なこと」
02	障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷
03	インクルーシブ保育と合理的配慮
04	肢体不自由児の理解と保育における発達の援助
05	知的障がい児の理解と保育における発達の援助
06	視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい児などの理解と保育における発達の援助
07	自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と保育における発達の援助①
08	自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と保育における発達の援助②
09	注意欠如多動症（ADHD）児の理解と保育における発達の援助
10	重度心身障がい児・医療的ケア児の理解と保育における発達の援助
11	その他の特別な配慮を要する子どもへの理解と保育における発達の援助
12	個々の発達を促す生活や遊び
13	保護者や家族に対する理解
14	発達を目指した様々な連携
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:保育・教職実践演習（幼稚園）	担当者:上原 隆司・太田 昌孝・小川 絢子・鬼頭 弥生・小柳 雅子・近藤 茂之・嶌田 弘子・杉山 実加・高須 裕美・高田 吉朗・新沼 英明・平野 朋枝・山下 直樹・八幡 美保・吉田 真弓・吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習

免許･資格:幼稚園教諭2種免許状	開講時期	後期
	配当学年	2
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は主体的に取り組み、相互に交流、研究を展開します。

授業の到達目標
保育・教育現場の実情と求められる保育実践者としての資質能力の向上を目指します。これまでの2年間で学んできた様々な知識や技能について、教員として必要な資質能力を整理・統合することによって、現在において新人保育者に求められている実践的力量を形成することを目標とします。①使命感や責任感、教育的愛情などの自覚、②社会性や対人関係力、③幼児理解や学級経営などの力量、④保育内容などの指導力、という4つの実践的力量の形成を意識していきます。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加姿勢（出席状況も含む）や発表内容、レポートなどを総合的に評価します。

教科書 適宜授業の中で紹介します。	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践演習と合わせて、演習を中心とした授業形式で進行していきますが、その中で発表、討論、講義、実技、観察、調査などの方法に積極的な態度で臨むことが将来の保育教育者としての資質を高めていくことになります。日々これらのことを強く意識しながら、将来の自分の姿をイメージしていくことが大切です。

01	教育実践検討会１　（教育実習反省会）
02	教育実践検討会２　（事例研究）
03	幼稚園訪問
04	教材報告会
05	教育実習のまとめと今後の課題
06	年齢別教育実践検討会（グループ討論）
07	保育・教育実践講演会「実践者の講演会」①
08	保育・教育実践講演会「実践者の講演会」②
09	保育・教育実践講演会を受けてのグループ討論
10	卒業生による就職懇談会
11	卒業生による就職懇談会を受けてのグループ討論
12	実践検討会
13	幼稚園訪問など
14	教育実践シンポジウム
15	教育実践シンポジウム
16	まとめ

2022年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、実例をとおして社会福祉の制度の理解を図ることができる。また、子どもの育ちを支える地域社会の役割について、行政の立場から多角的に検討することで、社会福祉の実際をより実践的に理解することができる。

本講義は社会福祉の専門職としての保育士が習得すべき社会福祉に関する法的、制度的知識を教授することを目的とする。社会福祉の制度は非常に複雑でその範囲も広い。本講義では制度等のしくみ（成り立ち）にも言及しながら理解を深める。

授業の到達目標
１．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
３．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
５．社会福祉の動向と課題について理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料の該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
課題の提出状況、受講状況（20%）、確認テスト（80%）を基準に総合的に評価します。

教科書	参考図書
使用しません	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回レジュメを配布します。このレジュメは就職試験等の参考資料としても活用できるように構成していますので、専用ファイル（A4版）を用意し、資料の整理に努めてください。

01	現代社会と福祉
02	社会福祉の歴史的形成
03	社会福祉の法律
04	社会福祉の制度と実施体系
05	住民福祉とボランティア
06	社会福祉従事者とその専門性
07	社会福祉における相談援助
08	社会福祉利用者保護と権利擁護
09	子ども家庭福祉
10	高齢者保健福祉
11	障害者福祉
12	社会保障制度・生活保護制度
13	地域福祉
14	医療福祉
15	社会福祉の今後の展望（まとめ）と確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭支援論	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本科目では、子どもと子育てを巡る環境に焦点をあてつつ、子ども・子育てを支える中核としての保育士の役割を明確にすることを第一の目的にします。昨今は児童虐待の問題など、子ども・家庭を巡る環境は複雑化しています。地域の子育てを担う保育者は相談・支援の専門職として、ソーシャルワーク等の知識・技術を身に着けるとても重要です。これらを多角的な視点によって学修することをねらいとします。

授業の到達目標
１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各回の終了時に次回までの課題（概ね1時間程度でできるもの）を出します。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や書籍などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や課題への取り組み状況40％、確認テスト60％

教科書	参考図書
使用しません	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用ならびに私語を厳禁とします。

01	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
02	子ども家庭支援の目的と昨日
03	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
04	子どもの育ちの喜びの共有
05	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
06	保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
07	家庭の状況に応じた支援
08	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
09	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
11	子ども家庭支援の内容と対象
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
13	地域の子育て家庭への支援
14	要保護児童等およびその家庭に対する支援
15	子ども家庭支援に関する現状と課題（まとめ）と確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:教育関係法規	担当者:小栁 雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業は、幼２種免許状を取得するために、保育者の実践を支える制度について講義形式で学んでいく科目です。現代の教育（保育）を支える制度について知り、それを踏まえた上で園での教育（保育）活動を円滑に行うための要件について学習していきます。また現在、特に求められている地域との関係性づくりや危機管理の取り組みについて、その意義や具体的な在り方について学びます（CP1-2）

授業の到達目標
①現代の教育システムとそれを支える制度について理解する（DP1）
②園の経営にかかわる事項（組織論・リーダーシップ論）等について理解する（DP1）
③地域と縁の関係性づくりについて理解する（DP2）
④園での危機管理の在り方について知る（DP2）
以上４点を本授業の到達目標とします。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能（DP1）
◎豊かな人間性・主体的行動力（DP2）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業にかかわる準備学修は必要ありません。
ただし事後学修として、配布テキストに示されている課題に毎回取り組んでください（所要時間約30分程度）。また、学んだことを復習し、関連事項や教育・保育にかかわる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしましょう。また、それらについて「自分自身の意見を持つ」ことができるようにしてください（1時間以上の取組が望ましい）。

評価方法
①第１回～14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回で実施する確認試験（60点）の合計点（200点）を総合評価します。このうち60％（120点）を本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布しますので毎回の授業に持参してください。	教育六法、保育六法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事柄について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋教育にかかわる制度（法規）をどれくらい知っていますか
02	我が国における教育制度の体系と歴史的変遷
03	子どもの権利と教育制度をめぐる諸問題
04	我が国の教育行政システム①－中央教育行政
05	我が国の教育行政システム②－地方教育行政
06	諸外国の教育行政システムの特徴
07	近年の教育課題とそれに対応する教育政策
08	教育活動を充実させる方策①－園を組織としてとらえよう
09	教育活動を充実させる方策②－リーダーの役割を知ろう
10	現代における園の経営課題①－教育者の労働実態と協働の在り方
11	現代における園の経営課題②－多様化する子どもと保護者への対応
12	現代における園の経営課題③－保護者・地域との連携と関係構築
13	園における危機管理①－安全教育と安全管理の基本的な考え
14	園における危機管理②－事例・判例から学ぶ具体的な危機管理の在り方
15	確認試験＋最終講義－教育者に求められるリーガル・マインド
16	なし

2022年度シラバス

科目名:幼児教育相談	担当者:山下 直樹・岡本 加苗	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育カウンセラー　スクールカウンセラー
「幼児教育相談」は、保育カウンセラー、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、保護者の子育て支援をすることがテーマになります。
この授業では、教育者として必要となる教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な理論や具体的な方法を整理する。授業は、演習や事例を多く取り入れながら行います。学生自身で感じ、考えることで教育者として求められるカウンセリングマインドについて学びます。

授業の到達目標
「幼児教育相談」は、教育者として子どもの発達状況を理解し、子どもが好ましいい人間関係を築き、集団の中での適応力を育みながら成長していくことを支援するのがテーマになります。また、支援に必要な基礎的知識を身につけるとともに、教育者としての自分自身を理解することを目標とします。この授業では、ロールプレイやグループワークなど、より実践に近い形でカウンセリングマインドを身につけます。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
幼児教育の中でカウンセリングを生かすには、カウンセリングマインドの習得が欠かせません。授業で学んだことを基礎としながら、日常生活でも家族や友人と会話する際に、話された内容に積極的な関心を持ち、共感的に理解するよう実践することとします。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
後日指示します	授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
発達心理学や臨床心理学、カウンセリングについての本など読んでみると、さらに視野が広がると思います。

01	オリエンテーション／教育相談の意義と理論
02	教育相談の理論と方法
03	子ども理解とカウンセリングマインド①MSSM法による自己と他者理解
04	子ども理解とカウンセリングマインド②基礎的対人関係トレーニング
05	子ども理解とカウンセリングマインド③受容と共感のカウンセリング体験
06	子ども・保護者に対する教育相談とその具体的方法
07	特別な配慮を要する子どもの保護者への教育相談
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭支援の心理学	担当者:小川 絢子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもや保護者の心理を多面的に深く理解し、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。子どもの発達を踏まえた上で、保育・幼児教育の実践が与える子どもへの影響について考えます。授業の柱は以下の4点です。
①生涯発達について理解する、②家族・家庭の意義や機能と親子や家族関係を発達的な視点で捉える、③子育て家庭をめぐる社会的状況について理解する、④子どもの精神保健とその課題を理解する。グループワークを行う回があります。

授業の到達目標
この授業の目標は、保育実践に関わる子どもや保護者の心理について基礎的な知識を習得することです。(DP)
特に、授業概要で述べた4つの観点を理解することを目標とします。
①生涯発達について理解する、②家族・家庭の意義や機能と親子や家族関係を発達的な視点で捉える、③子育て家庭をめぐる社会的状況について理解する、④子どもの精神保健とその課題を理解する。（DP）また、実習等で行った自らの子どもへの関わり方を振り返る力を身に付けてほしいと思います。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から子どもに対する自分の関わりについて振り返り、授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分自身が子どもに関わった経験を考察を行う等の時間を、16回の授業期間中に3回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。16回の授業期間中に3回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）、毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、確認テストの受験資格はありません。

教科書	参考図書
「子ども家庭支援の心理学～子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る」常田美穂・辰巳裕子・北川裕美子・吉井鮎美／編著　ひとなる書房	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション― 子ども家庭支援の心理学とは何か
02	生涯発達① 児童期の発達
03	生涯発達② 青年期の発達
04	生涯発達③ 成人期から老年期の発達
05	家族・家庭の理解① 家族の意義と機能
06	家族・家庭の理解② 親子関係の理解
07	家族・家庭の理解③ 家族関係の理解
08	家族・家庭の理解④ 子育ての経験と親としての育ち
09	子育て家庭に関する現状と課題① 子育てを取り巻く社会的状況
10	子育て家庭に関する現状と課題② ライフコースと仕事・子育て
11	子育て家庭に関する現状と課題③ 多様な家庭とその理解
12	子育て家庭に関する現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭
13	子どもの精神保健とその課題① 精神保健とは
14	子どもの精神保健とその課題② 子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの精神保健とその課題③ どもの心の健康に関わる問題
16	授業のまとめ

科目名:子どもの食と栄養	担当者:八幡 美保・近藤 真由美	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　食育で学んだ基礎的な知識を生かした演習・調理実習を行うことで、子どもの発達期に応じた食事形態の特徴と食育への応用について理解を深める。一方、衛生管理を学び、調理の基本的技術を習得する。また、幼児期の弁当の献立作成と調理、行事食、食物アレルギー対応食も学ぶ。事前に配付するプリントに沿って授業を進行し、原則として、隔週２コマ連続で実施する。

授業の到達目標
　保育者として食事指導と食育に取り組む基礎を身につける。
1.　衛生管理に留意し、基本的な調理ができる
2.　子どもの発達期に応じた食事形態の特徴を把握し、説明できる
3.　行事食の意義を理解し、日本の伝統的な食文化を食育活動に活かすことができる
4.　食物アレルギーの特徴を理解し、除去食の調理と支援ができる
5.　子どもの食に関する課題を見出し、食育活動に応用することができる
6.　グループ内で協力し、責任を持って実習に取り組むことができる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　事前に配付するプリントを読み、不明な部分は資料の下調べをすること。実習後は、速やかにレポートを作成し、学生同士のディスカッションで理解を深める。保育実習・教育実習にて子どもの給食・おやつの様子、食育活動やアレルギー対応の取り組みをよく観察する。豊富な食環境から自分自身の健康に最適な食事を選択するための力を養うため、普段の食生活を見直し、栽培・収穫体験や収穫した食材を利用した調理に取り組むこと。

評価方法
　確認テスト（20%）、レポート課題（60%）、学習意欲（20%）を総合して評価する

教科書	参考図書
子どもの食と栄養演習　第5版　小川雄二編著　建帛社	保育所保育指針解説書、保育所におけるアレルギー対応ガイドライン、保育所における食事の提供ガイドライン

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　食材・食事に興味を持ち、授業外に調理をする機会をもつ。外国籍の子どもが増加していることから、海外の食文化にも興味を持つ。そのためには、自国の食文化について理解する。

01	オリエンテーション、衛生管理
02	食生活の基本
03	乳児期の栄養
04	離乳食実習
05	幼児期の栄養 日本人の食事摂取基準 食品と献立作成の基礎知識 子どもの発育・発達と栄養 味覚と嗜好（味覚と嗜好についての演習）
06	幼児食実習
07	食育の基礎知識と実践
08	間食実習
09	幼児弁当実習①
10	幼児弁当実習②
11	行事食実習①
12	行事食実習②
13	食物アレルギー実習①
14	食物アレルギー実習②
15	幼児弁当実習③　プレゼンテーション
16	まとめと確認テスト
17	離乳食演習Ⅰ　離乳の進め方
18	離乳期演習Ⅱ(5～6 、7～8ケ月)
19	離乳期演習Ⅲ(9～11 、12～18ケ月)
20	幼児食演習Ⅰ（幼児期の栄養の特徴）
21	幼児食演習Ⅱ（幼児期の食事実践演習）
22	食物アレルギー演習Ⅰ食物アレルギー演習Ⅰ
23	食物アレルギー演習Ⅱ
24	間食演習Ⅰ

25	間食演習Ⅱ
26	行事食演習Ⅰ
27	行事食演習Ⅱ
28	幼児期弁当演習
29	子どもの食と栄養総合演習
30	子どもの食と栄養総合演習
31	子どもの食と栄養のまとめ

2022年度シラバス

科目名:保育カリキュラム論	担当者:嶌田 弘子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
この授業科目は、元保育園長の経験を踏まえ、保育者が子どものよりよい成長を願い、子どもとともに遊びや生活を創り出すことができる「計画に基づいた実践」について、その仕組みや考え方、作成の方法、省察の意義と方法について具体的に考える。全体的な計画や具体的な指導計画は、保育者の意図や目的のないままに行われることはない。実践経験をもとに保育者の子ども理解や保育観が計画実践に影響を及すことを理解できるようにするとともに、計画作成を授業内で体験的に学べるようにする。【AL】

授業の到達目標
保育のカリキュラムとは何か理解する。教育・保育課程(全体的な計画)編成についての考え方や、編成に必要な関係法規、作成方法について具体的に知識を深める。編成にとって必要な子ども理解や子どもの育ちを支える環境等についても知識、理解を深められるようにする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育に関する法規、特に改定のあった3法令については、新要領や新指針をよく読むようにすること。子どもを取り巻く環境の変化や、社会問題にも関心を深められるように、日々のニュースや新聞記事などにも関心を持って目を通すようにする。

評価方法
課題レポート50%　各授業での小レポート30%　授業の振り返り　20%

教科書	参考図書
保育カリキュラム論　建帛社	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説書　幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもが主体的に遊ぶことができる環境づくり、計画づくりを考えましょう。わからないことは「聞く」「調べる」「考える」を実践しましょう。

01	保育カリキュラムとは
02	教育・保育課程の意味　保育をデザインすることについて
03	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと①　関係法規
04	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと②　子どもの発達理解　発達過程の見直し
05	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと③　地域や家庭環境の実態の理解と連携
06	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと④　子どもを取り巻く環境・社会問題
07	保育の計画と評価の意義
08	PDCAサイクルの考え方と意義　省察の方法
09	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育計画との関連
10	教育・保育課程(全体的な計画)編成と展開
11	教育・保育課程(全体的な計画)から指導計画へ
12	指導計画立案の考え方と方法　基本的視座
13	指導計画立案の考え方と方法　子どもの姿を計画に反映するために
14	指導計画立案の考え方と方法　実際に立案してみよう
15	まとめ　保育実践に活かす　教育・保育課程(全体的な計画)作成のために
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:平野 朋枝・横山 龍子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　HDP1「保育と保育者の本質についての理解」に関連して、領域「健康」に関わる保育実践に関する知識・技術の獲得を目指すとともに、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい及び内容についての理解を深める。幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。授業内で実施する模擬保育や保育実践を通して、自己の振り返りや課題の発見を心掛け、HDP3に示される省察力の向上を目指す。
　なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
・領域「健康」のねらい及び内容を理解する。
・領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
・自らの保育実践を振り返り、改善する力を身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・発表等の課題に向けての事前準備を十分に行う。
・学外実習等を通して子どもの健康に関わる諸課題や運動発達を理解する。
・授業後に、授業内容や自分の気づきを記録する。

評価方法
確認試験（実技試験を含む）（30%）、リアクションペーパー・発表・平常課題・授業への取り組み状況（30%）、期末提出課題（40%）リアクションペーパー・発表・課題については、質・量を勘案して評価する。

期末提出課題は期末試験に相当する。期末提出課題の提出がない場合は、受講放棄とみなす。実技試験の受験も成績評価には必須である。対面授業停止等により実技を実施できない場合は、評価方法を変更することがある。

確認試験については、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。平常課題については、その後の授業で特徴的な意見や優れたレポートを紹介する。

教科書	参考図書
新時代の保育双書　保育内容健康	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・自分の健康の維持増進を意識した日常生活を送るとともに、健康に関する情報収集に努めましょう。
・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。
・実技の授業については、運動するのにふさわしい服装と身だしなみでなければ受講できない。

01	オリエンテーション、幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容
02	保育の内容と指導上の留意点、小学校との接続
03	生活習慣と安全のための指導
04	生活における身体活動、運動指導の留意点と保育者の役割
05	指導計画の作成①　ねらいと環境の構成
06	指導計画の作成②　援助
07	保育実践①　模擬保育
08	保育実践②　幼児を迎えた運動遊びの環境作り
09	保育実践③　幼児を迎えた運動遊びの環境作りと援助
10	保育実践の振り返り、確認テスト
11	運動指導の留意点と保育者の役割①　移動系の運動遊び
12	運動指導の留意点と保育者の役割②　操作系の運動遊び 安全管理と安全教育
13	保育の現代的課題と保育実践のあり方①　体力低下
14	保育の現代的課題と保育実践のあり方②　生活習慣における課題
15	確認テスト・まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と人間関係」	担当者:吉田 真弓	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭・保育士：現場では様々な年齢のクラス担任をし、遊びの実践や保育活動の実践を行った。その実践記録をもとにクラスの仲間関係（人間関係）の発展について考察を行い、日々の保育に取り組んだ。
この授業は、３法令が示す「人間関係」の領域についての理解を深め、実践に向けての指導力を身に付けることを目的とする。ディプロマポリシーにもある、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身に付け、
乳幼児期における人と関わる力の発達を理解するとともに、保育者の援助についての理解も深めていく。
授業では、視聴覚教材や事例をもとにグループ討議を行い、他の人の意見を聞くことで様々な考え方ができるようにする。

授業の到達目標
①　幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されているねらいと内容について理解する。
②　乳幼児期の人との関わりの発達について理解する。(DP)
③　人と関わる力を育むための保育方法を考えることができる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を見て、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説の授業に関係する箇所に目を通しておく。
・乳幼児期の発達について基本的なことを復習したり、事例を読み返して自分の考えをまとめたりしておく。
・ボランティアなどを通して、乳幼児と関わる体験をするように心掛ける。

評価方法
授業への参加態度・ミニレポート　30%　　課題　20%　　テスト50%

教科書	参考図書
レジュメ等を配布	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説　認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に積極的に参加し、自分の考えを発表したり自分とは違った考えを取り入れたりしながら、保育者としての力量を身に付けてほしい。

01	オリエンテーション、保育の基本と領域「人間関係」
02	子どもを取り巻く社会の状況
03	領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」
04	乳幼児期の人との関わりの発達
05	遊びの中の友達との関わり　ー子どもの自立心ー
06	遊びの中の友達との関わり　ー子どもの自己主張と自己発揮ー
07	遊びの中の友達との関わり　ーいざこざ・トラブルでの成長ー
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と環境」	担当者:上原 隆司・鬼頭 弥生・朴 信永	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育士
この授業科目では、乳幼児期の子どもが保育所や幼稚園などの場で主体的に周囲の環境とかかわり育っていく過程と、保育者としての乳幼児の環境をとらえるための視点について具体的に学び、さらに指導案の作成に導く。【AL】

乳幼児の「環境」にかかわる具体的な場面を想定し、発達に応じた保育の構想、指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
・幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、就学後への見通しを持つ。
・環境に主体的にかかわる乳幼児の心情・認識・思考・行動を理解し、他の領域との関連性を理解したうえで保育場面を構想し具体的に計画する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・実習で、乳幼児と周囲の環境との関係性を感性豊かな視点で観察すること
・実習で、保育室内や園庭の環境設定を丁寧にとらえ、再構成される理由や意味について質問したり考察したりすること

評価方法
授業・討議への参加態度（30%）　提出物（30%）　確認テスト（40%）

教科書	参考図書
保育内容「環境」-基礎的事項の理解と指導法-（建帛社）	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	教育・保育における「環境」
02	好奇心・探求心を育てる環境　思考力の芽生えを育む環境
03	子どもと自然　1年を通した環境の変化
04	年齢段階に応じた環境との関わりと保育者の援助
05	身近な玩具・遊具・用具・道具から環境構成を考える
06	身近にある素材で遊ぶ中で育つもの（指導方法の構想と指導計画の立案）
07	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、環境を通した教育・保育の課題
08	まとめ　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指し、保育内容の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。子どもの言葉とは何か、言葉の発達とは、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
２　言葉とは何か、言葉の発達過程について説明することができる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや絵本などとの関わりを理解し、実践できる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を40%、絵本ノートと絵本の制作を20%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※「子どもと言葉」の授業と同一の教科書使用	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

01	子どもの言葉の発達（誕生から1歳頃）
02	子どもの言葉の発達（1歳から2歳頃）
03	子どもの言葉の発達（2歳から6歳頃）
04	保育内容の領域「言葉」
05	言葉と絵本（絵コンテ作り）
06	言葉と絵本（絵本下書き）
07	言葉と絵本（絵本制作）
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:太田 昌孝	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【言葉】は人間固有のコミュニケーションツールであるだけでなく、人間がその特性を生かして生きてゆくための中枢を形成する。本講義では幼児期における言葉の獲得と応用の関係を学ぶと共に、様々な言語教材の実践例を基に【言葉】が持つ本質的な内実と可能性についてより深く学び、幼児と言葉の緊密な関係性の中心にあるものを習得する。 (DP)

授業の到達目標
①【言葉】の持つ基本的性質について理解する。 (DP)
②言葉の力を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。 (DP)
③ ①②で習得した内容を基に保育現場での実践力について深く学ぶ。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能 ◎自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①日常生活の中で、常に幼児の発する言葉を傾聴する。
②保育に関する新聞記事や文献に対し、常に鋭敏な感覚を保持する。
③幼児向けの文学作品の読み聞かせ、紙芝居等の実践を通じて、自らの言語感覚を錬磨する。

評価方法
課題20%。期末レポート80%の割合で評価する。課題についてはA.B.Cの評価とコメントを付して返却する。期末レポートについても評価とコメントを付して返却する。

教科書	参考図書
『保育内容・言葉』 (同文書院)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 系統的な講義になるので欠席をしないようにすること。
② 講義におけるマナーを遵守し、学生としての本分を忘れないようにすること。
③ 連絡方法：m-ohta@nagoyacollege.ac.jp

01	オリエンテーション 子どもの育ちと「言葉」。
02	テキスト味読・解説『保育内容・言葉』「七章1 絵とことばの豊かな世界を楽しむ」P101～P110
03	テキスト味読・解説『保育内容・言葉』「七章1 絵とことばの豊かな世界を楽しむ」P110～P125
04	テキスト味読・解説『保育内容・言葉』「七章2 絵とことばの豊かな世界を楽しむ」P126～P131
05	テキスト味読・解説『保育内容・言葉』「九章1想像や言葉の世界を楽しむ」P155～P159
06	テキスト味読・解説『保育内容・言葉』「九章2 絵とことばの豊かな世界を楽しむ」P160～P166
07	テキスト味読・解説『保育内容・言葉』「九章2 絵とことばの豊かな世界を楽しむ」P166～P172
08	講義のまとめ「豊かな言葉の使い手であるために」
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:杉山 実加	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の言葉の発達段階や言葉の役割など、子どもの言葉の豊かさを養うために必要な基礎的事項を学ぶ。授業ではグループワークを始めとするアクティブラーニングを各回で行うとともに、体験・動画視聴など多様な学習方法を通して理論的・実践的に学びを深める。授業内の読み・書き・対話といった活動を通して学生自身の言葉もより豊かになることを目指す。【AL】

授業の到達目標
1、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解する（DP）
2、指導上の留意点や評価の考え方を理解する（DP）
3、具体的な実践例に基づき、子どもとの関わりや保育について考えることができる（DP）
4、小学校とのつながりを理解している
5、事例に基づいて子どもの思いについて、自分の関わりの意図を説明することができる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1、ざまな表現や語彙に関心を持ち、それらを積極的に活用するなど、日常生活の中で自らの言語表現能力を豊かにするよう心掛ける
2、絵本や紙芝居などの児童文化財を実際に読み、そのおもしろさを体感する

評価方法
授業態度　10%　授業内課題　50%　確認テスト　40%

教科書	参考図書
なし	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内のグループワーク・課題が学びを深めるために重要となるため、積極的に取り組むこと。
授業ごとに到達目標を段階的に提示するため、目指す到達点を自分で設定して受講すること。

01	オリエンテーション　授業の全体の流れ
02	事例を通して学ぶⅠ　保育者と子どもの言葉
03	事例を通して学ぶⅡ　子ども同士の言葉
04	事例を通して学ぶⅢ　子どもの集団の言葉
05	発達の遅れと支援方法
06	保育者として言葉を豊かにする
07	小学校での学びと幼児期の経験の繋がり
08	授業のまとめ　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育内容指導法「生活と表現」	担当者:高田　吉朗・高須　裕美	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 子どもの生活において、経験を通した感性の育ちやイメージの形成が重要である。この授業では、オムニバス形式で、造形表現、音楽表現の担当者から表現に関わる発達とその指導法を学ぶ。子どもが周りの世界と意欲的に関わり、様々な方法でイメージを膨らませ表現して遊ぶことの意義や、保育者の指導法を実践的に学ぶ。
授業の到達目標 2年次に行われる実習での学びと連動しながら、現場でも役に立つ実践的な表現力とその技術を学ぶ。子どもと保育者の感性豊かな表現の重要性を認識できるようにする。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能 ◎省察力・改善力
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 生活において聴こえる音や様々な色・形・造形への興味を広げ、子どもの受容を想定しながら感性豊かな遊びを考える。様々な保育実践を真似するだけでなく、自分のスタイルへ変化させていく。
評価方法 造形分野の受講態度・スケッチブック50%、音楽分野の受講態度・指導法実践評価50%

教科書	参考図書 「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「認定こども園教育・保育要領」、「楽しさはじける表現あそび」明治図書 「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「認定こども園教育・保育要領」、「楽しさはじける表現あそび」　明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 自分自身の感性を豊かにするために、見たり、聴いたり、触れたりする経験をすること。連絡手段はTeams,或いはメールで行う。

01	造形表現とは（高田）
02	子どもの音楽的発達と身体表現（高須）
03	季節の行事と工作（高田）
04	即興的表現と創作表現（高須）
05	子どもの描画活動（高田）
06	聴く活動から文化的な音楽活動への展開（高須）
07	造形活動の指導法（高田）
08	音楽表現の模擬保育（高須）、まとめ

2022年度シラバス

科目名:幼児教育指導法	担当者:杉山 実加	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育のねらいを達成するために必要な指導・援助を行うために必要な理論や技術について理論的に学ぶとともに、その知識を活用したグループワークなどの実践的な学びを通して問題解決力を養い、子どもの主体性や個性を尊重した指導の在り方について学ぶ。毎回の授業ではグループワークを行うとともに、授業内容に関する課題（個人）に取り組む。個人課題は授業後に回収し、次の授業時にルーブリックに基づき採点したものを返却するとともに、全体で回答内容の紹介やポイントについてフィードバックを行う。【AL】

授業の到達目標
1、保育の形態・方法・環境構成について理解する。（DP）
2、保育内容の指導に必要な基本的姿勢と考え方を理解し、自らの実習経験も踏まえて指導法について説明することができる。（DP）
3、効果的な情報機器及び教材の作成・提示の仕方を理解する

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1、日常生活の中で、さまざまな保育形態・方法に関心を持つようにする。
2、授業での学びと実習での学びを結び付けることで、より深い理解を目指す。

評価方法
授業態度10%、授業内課題50%、確認テスト40%

教科書	参考図書
なし	実践を創造する幼児教育の方法：みらい、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
1、授業では他者との学び合いの機会を大切にし、さまざまなメンバーと学ぶことを通して、コミュニケーションや傾聴の技術も向上するよう意識すること。
2、授業ごとにルーブリック評価を提示するため、自身で学ぶ目的と到達目標を意識して授業に臨むこと。

01	オリエンテーション　大人と子どもの違いについて考える
02	幼児教育における指導の特性Ⅰ　総合的な指導
03	幼児教育における指導の特性Ⅱ　個と集団
04	環境を通しての保育
05	遊びの指導・援助
06	生活の指導・援助
07	園行事の指導・援助
08	具体例をもとに指導について考えるⅠ（遊びの展開を考える）
09	具体例をもとに指導について考えるⅡ（絵本と遊びのつながり）
10	具体例をもとに指導について考えるⅢ（身近な素材を遊びに生かす）
11	小学校との接続の方法・援助の在り方
12	保育における情報機器の活用方法
13	諸外国の保育方法
14	国内の多様な保育方法
15	授業のまとめ　確認テスト
16	なし

科目名:子どもと健康Ⅰ	担当者:平野 朋枝・渡部 努・横山 龍子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この科目では、HDP1「保育と保育者の本質についての理解」に関連して、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活などの専門的事項について、実技を通して知識を身につける。様々な保育の課題について議論する中で、HDP4に示される連携、協働の力を養う。
　なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
・健康の発達的意味と乳幼児期の健康課題を理解する。
・乳幼児期の体の諸機能の発達を理解する。
・乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・発表等の課題に向けての事前準備を十分に行う。
・学外実習等を通して子どもの健康に関わる諸課題や運動発達を理解する。
・授業後に、授業内容や自分の気づきを記録する。

評価方法
確認試験（実技試験を含む）（30%）、リアクションペーパー・発表・平常課題・授業への取り組み状況（30%）、期末提出課題（40%）リアクションペーパー・発表・課題については、質・量を勘案して評価する。期末提出課題は期末試験に相当する。期末提出課題の提出がない場合は、受講放棄とみなす。実技試験の受験も成績評価には必須である。対面授業停止等により実技を実施できない場合は、評価方法を変更することがある。
確認試験については、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。平常課題については、その後の授業で特徴的な意見や優れたレポートを紹介する。

教科書	参考図書
新時代の保育双書　保育内容健康	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・自分の健康の維持増進を意識した日常生活を送るとともに、健康に関する情報収集に努めましょう。
・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。
・実技の授業については、運動するのにふさわしい服装と身だしなみでなければ受講できない。

01	オリエンテーション、乳幼児期の心と体、身体発達の特徴
02	健康の定義と乳幼児期の健康の意義、屋外での運動遊び、基本の運動
03	乳児期の運動発達と遊び
04	幼児期の運動発達と遊び① 3,4歳児
05	幼児期の運動発達と遊び② 5歳児
06	遊びの中での多様な動きの獲得① 基礎的運動
07	遊びの中での多様な動きの獲得② 移動系運動：鬼遊び
08	遊びの中での多様な動きの獲得③ 移動系運動：遊具での遊び
09	遊びの中での多様な動きの獲得④ 操作系運動：ボール
10	遊びの中での多様な動きの獲得⑤ 操作系運動・フープ
11	乳幼児期の健康課題とその対応① 運動能力の発達
12	乳幼児期の健康課題とその対応② 視力と遊び環境
13	乳幼児期の健康課題とその対応③ 運動と非認知能力の発達
14	安全管理・安全教育
15	確認試験、まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:子どもと人間関係	担当者:吉田 真弓	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭・保育士：現場では様々な年齢のクラス担任をし、遊びの実践や保育活動の実践を行った。その実践記録をもとにクラスの仲間関係（人間関係）の発展について考察を行い、日々の保育に取り組んだ。
この授業は、幼稚園教育要領・保育所保育指針が示す「人間関係」の領域についての理解を深め、実践に向けての指導力を身に付けることを目的とする。ディプロマポリシーにもある、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身に付け、乳幼児期の発達を理解するとともに、そこから広がる人間関係についての理解も深めていく。
授業では、視聴覚教材や事例をもとにグループ討議を行い、他の人の意見を聞くことで様々な考え方ができるようにする。

授業の到達目標
① 幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されているねらいと内容を理解し、具体的事例を考察できるようになる。(DP))
② 乳幼児期の発達について理解する。
③ 乳幼児期の人間関係の広がりについて理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を見て、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説の授業に関係する箇所に目を通しておく。
・乳幼児期の発達について基本的なことを復習したり、事例を読み返して自分の考えをまとめたりしておく。
・ボランティアなどを通して、乳幼児と関わる体験をするように心掛ける。

評価方法
授業への参加態度・ミニレポート　30%　　課題　20%　　テスト50%

教科書	参考図書
レジュメ等を配布	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に積極的に参加し、自分の考えを発表したり自分とは違った考えを取り入れたりしながら、保育者としての力量を身に付けてほしい。

01	オリエンテーション、領域「人間関係」について
02	共感・思いやり
03	道徳性の芽生えと規範意識
04	コミュニケーション能力
05	協同性の育ち
06	地域の人々との関わり
07	保護者と保育者の人間関係
08	園内の人間関係　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもと環境	担当者:上原 隆司・鬼頭 弥生・朴 信永	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育士
この授業科目では、乳幼児期の子どもが保育所や幼稚園などの場で主体的に周囲の環境とかかわり育っていく過程と、保育者としての乳幼児の環境をとらえるための視点について具体的に学ぶことができるようにする。【AL】

乳幼児を取り巻く環境や乳幼児と環境とのかかわりについての現状や課題を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。

授業の到達目標
・子どもを取り巻く環境とその発達にとっての重要性を理解する
・遊びを通して子どもが身近な環境に興味・関心を持つ過程について理解する
・子どもと身近な環境との関わり方について理解する

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・実習で、乳幼児と周囲の環境との関係性を感性豊かな視点で観察すること
・実習で、保育室内や園庭の環境設定を丁寧にとらえ、再構成される理由や意味について質問したり考察したりすること

評価方法
授業・討議への参加態度（30%）　提出物（30%）　確認テスト（40%）

教科書	参考図書
保育内容「環境」-基礎的事項の理解と指導法-（建帛社）	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	子どもと身の回りの環境
02	身の回りの環境の中に潜む危険と安全面での配慮
03	子どもと飼育・栽培
04	土・砂・水等の自然、樹木・草花等の自然（戸外遊びの実践）
05	子どもと身近な物　物の性質や仕組み（遊びの実践活動）
06	子どもと環境のかかわり　数量や文字・記号
07	子どもと暮らし　道徳性、文化や伝統、地域社会
08	まとめ　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもと言葉	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指し、保育内容の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。子どもの言葉とは何か、言葉の発達とは、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや紙芝居の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
1　幼児の発達特性を踏まえ、幼児の言葉の発達を理解できる。
2　幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、援助ができる。（DP）
3　言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化を理解し適切に利用することができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ内容（参考資料等を含む）をよく調べて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後の方で、初回の授業で指定した課題を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を40%、絵本ノートを20%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※保育内容指導法「生活と言葉」の授業と同一の教科書を使用	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	言葉と児童文化
05	絵本の選び方
06	紙芝居とは
07	紙芝居の演じ方と制作
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもと言葉	担当者:太田 昌孝	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
言葉は人間固有のコミュニケーションツールであるだけではなく、人間が人間として生きて行く為の中枢である。本講義では乳幼児期における言葉の習得の基礎を学ぶと共に、子どもたちの生活と言葉との関係についてその基礎的事項を習得する。(DP)

授業の到達目標
① 言葉の持つ基本的性質について理解する。
② 乳幼児の言葉の発達過程を理解する。
③ 言葉を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
① 日常生活の中で、常に子どもの言葉に耳を傾けるようにする。
② 絵本の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を練磨する。

評価方法
課題20%。期末レポート80%の割合で評価します。尚、課題・期末レポートについては正しい日本語で書かれていることと、それぞれのテーマに沿った内容であるかを評価の基本とします。

教科書	参考図書
『保育内容・言葉』　(同文書院)	『本が好きな子に育つために』(萌文書林)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 系統的な講義になるので欠席をしないようにすること。
② 講義におけるマナーを遵守し、学生としての本分を忘れないようにすること。
③ 連絡方法:m-ohta@nagoyacollege.ac.jp

01	オリエンテーション　子どもにとって「言葉」とは何か。
02	「子どもの言葉と育ち」①『保育内容・言葉』P1-P4をテキストに使用。
03	「子どもの言葉と育ち」②『保育内容・言葉』P5－P9をテキストに使用。
04	【ビゴツキーの「言語理論」について】・資料を配布し具体的に解説する。
05	「子どもの言葉と保育者」①『保育内容・言葉』P43-P48をテキストに使用。
06	「子どもの言葉と保育者」②『保育内容・言葉』P49-P53をテキストに使用。
07	「子どもの言葉と保育者」③『保育内容・言葉』P54-P59をテキストに使用。
08	講義のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもと言葉	担当者:杉山 実加	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。授業内では実際に絵本に触れたり、言葉遊びをグループで体験したり、発表しあうことで、子どもが感じるであろう楽しさを理解し、それを保育や子ども理解へ繋げられるようにする【AL】

授業の到達目標
1、人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。
2、乳幼児の言葉の発達段階について理解し、言葉の機能についても説明できる。 (DP)
3、言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。 (DP)
4、児童文化財の意義を理解し、実践に関する基礎的な知識を身につける。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1、ざまな表現や語彙に関心を持ち、それらを積極的に活用するなど、日常生活の中で自らの言語表現能力を豊かにするよう心掛ける
2、絵本や紙芝居などの児童文化財を実際に読み、そのおもしろさを体感する

評価方法
授業態度　10%　授業内課題　50%　確認テスト　40%

教科書 なし	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内のグループワーク・課題が学びを深めるために重要となるため、積極的に取り組むこと。
授業ごとに到達目標を段階的に提示するため、目指す到達点を自分で設定して受講すること。

01	オリエンテーション　授業の全体の流れ　言葉の機能
02	乳児の言葉の発達―0歳児
03	乳児の言葉の発達―1.2歳児
04	幼児の言葉の発達―3～5歳児
05	絵本と紙芝居を用いた実践　実際に読んでみよう
06	絵本の紹介ポップ作成を通して絵本の魅力と言葉の工夫を考える
07	絵本にオリジナルの物語をつけて、言葉の豊かさを感じよう
08	授業のまとめ　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:子どもと表現	担当者:中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
領域「表現」を通してねらい、内容を理解し、乳幼児の表現の特徴や発達、様々な表現活動や環境の構成などについて実践を含めた学び、乳幼児期の表現活動を支える保育者の役割を考え知識や技能、表現力を身に着ける。

授業の到達目標
（1）乳幼児の表現の表し方や「表現」の視点からの発達を理解する。
（2）様々な表現方法の知識や技能、表現を支える環境つくりを学び、表現活動を実践する中で感性を豊かにする。

【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
身近な自然に触れたり音、色、手触りなどを意識したりする中で感性豊かな生活を心掛ける。
子どもと関わることを想定しながら保育者としてどのように表現を楽しむかを考える。

評価方法
出席、受講態度（50%）前授業を通して記述した学習内容の学びや事例を用いた課題を中心に学びの過程（20%）
最終グループワークの発表（30%）

教科書	参考図書
教員側で用意するレジュメ	事例で学ぶ領域「表現」監修：無藤孝　萌文書林、保育内容「表現」体から始まるアート編著：西洋子他市村出版

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の感性を豊かにするために、見たり、聴いたり、触れたりする経験を大切にしましょう。
連絡：teamsのチームとmoodle、掲示板　　持ち物：毎授業に保育所保育指針を持ってくること

01	授業説明と「表現」の重要性の理解
02	領域「表現」のねらい、内容の理解
03	乳幼児の表現の特徴を知る
04	乳幼児の表現を支える保育者の役割と理解
05	乳幼児の表現の発達の理解
06	豊かな表現のために~ごっこ遊びから劇あそび～の大切さを知る
07	音、歌遊び、劇あそびを「学び」の視点から捉える~グループワーク~
08	まとめとグループ発表

科目名:子どもと音楽表現	担当者:高須 裕美・近藤茂之・堀ノ内 宏子・満田 有香・槌田 幸子・鈴置 育代・東島 佳子・笠木 厚憲・青木 園恵	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:音楽Ⅰ単位修得者を対象とする。		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業の概要
　領域「表現」に関わる歌唱指導を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。
授業の方法
　保育者の音楽表現技術の一つであるピアノを使った「弾き歌い」を中心に学修する。音楽Ⅰで使用したテキスト「子どもの歌200選」、また実習における課題、実習園から配布、指定された曲も学修する。また保育内容指導法の歌唱領域に関する音楽的発達、幅広い表現方法のあり方、指導法を実践的に学ぶ。

授業の到達目標
子どもの歌う活動に着目した音楽表現の様々な基礎的な技能・知識を学ぶ。
１）表現することの楽しさを学び「幼児の歌」の歌詞を適切に分析することができる。
２）受講者が互いに歌う活動を鑑賞することによって、保育者の表現力について検討する。
３）子どもに内在する感性、歌うことに関わる発達を理解することができる。
４）歌うだけでなく身体を伴う表現活動も展開させることができる。
５）唱歌・童謡の伝承者としての保育者の役割を認識することができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
できる限り多くの曲の背景を知り、歌詞について学び、いかに保育実践で展開するのかについて考える。声を出すこと、子音を明確に歌うこと、正しい呼吸で歌うことについて、自分の歌を録音したり人の歌を観察したりしながら、その楽しさと子どもの生活における歌唱の重要性を意識すること。

評価方法
全授業を通じて、学修内容の気づきや課題をポートフォリオ（学修カルテ）にまとめ、学生自身の学びを可視化させたものをプロセス評価する（20%）、課題の取り組みと提出状況を評価する（20%）、学びの成果を評価する（40%）「第15回授業の評価」、学びの成果を評価する（２0%）「第16回授業の評価」

教科書 こどものうた200（チャイルド本社刊）、	参考図書 「幼稚園教育要領」、「認定こども園教育・保育要領」並びに「保育所保育指針」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	歌う活動から、歌うことの楽しさと歌詞の重要性を理解する
02	弾き歌いの活動から、子どもの息の長さを配慮したブレスの場所などを検討する
03	運指の確認や検討によって、弾き歌いの活動からフレーズ感覚を体得する
04	身体活動を伴う歌、オノマトペや掛け声のある歌を実践する
05	簡易楽譜（コード）による伴奏法を学ぶ
06	「唱歌」に取り組む重要性について学ぶ
07	「童謡」に取り組む重要性について学ぶ
08	「童謡」に取り組む重要性について学ぶ
09	「子どもの歌（昭和以降～現代）」に取り組む
10	「子どもの歌（昭和以降～現代）」に取り組む
11	「行事の歌、季節の歌」を実践する/幼児の指導の観点について議論し、歌唱活動に繋がる保育内容実践を検討する（高須）
12	「行事の歌、季節の歌」を実践する/幼児の模擬指導の実践について準備する（高須）
13	「動物の歌、人の歌」を実践する/歌唱模擬指導１(歌詞理解について実践する：高須)
14	「動物の歌、人の歌」を実践する/歌唱模擬指導２（適切な歌唱曲を年齢別に検討する：高須）
15	子どもの歌を演奏する
16	歌唱模擬指導を実施する（高須）

科目名:子どもと健康Ⅱ	担当者:渡部 努	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この科目では、HDP1「保育と保育者の本質についての理解」に関連して、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活などの専門的事項についての知識を身につける。様々な保育の課題について議論する中で、HDP4に示される連携、協働の力を養う。

授業の到達目標
●幼児期の生活習慣の形成を理解する。
●安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。
●乳幼児期の健康課題とその対応を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
◦授業前には授業内容を教科書で確認する。（毎回の授業につき60分）
◦授業後はレジュメの整理をし、内容の振り返りを行う。（毎回の授業につき60分）
◦乳幼児の健康に関する資料収集及び課題発表等の準備を行う。（毎回の授業につき120分）

評価方法
授業への参加態度・提出物(20%)　課題発表（40%）　確認テスト(40%)　計100%

教科書	参考図書
授業内で適宜、知らせる	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は、授業内で知らせる。

01	乳児期の生活習慣の形成とその意義
02	幼児期の生活習慣の形成とその意義
03	幼児の安全教育・健康管理
04	幼児期の怪我の特徴と病気の予防
05	幼児期の安全管理（リスクとハザード）
06	乳幼児期の健康課題（睡眠不足、食に関する問題など）
07	乳幼児期の健康課題
08	乳幼児期の健康課題とその対応、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:児童文化	担当者:太田 昌孝・杉山 実加・緑川 幸成	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童文化とは、長年にわたり受け継がれてきた文化や歴史などを背景に、現在へと受け継がれた【文化財】である。保育者は子どもとこの【文化財】を仲立ちにして保育活動を行いながら、次世代を担う存在にこの【文化財】を継承させるという使命を負っている。本講義では「伝承遊び」、「童謡」、「年中行事」の三方面から、児童文化の持つ効用、背景、保育現場での活用の仕方について理解を深める。

授業の到達目標
①保育における「年中行事」「伝承遊び」「童謡」の背景と意義、そして成立過程などについて深く理解し、それらを保育現場において、効果的かつ段階的に学ばせるためには何が必要であるかについて、深く学ぶ。
②児童文化を一つのテキスト（場）として捉え、保育における理論と実践の関係について正確に理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から、年中行事、伝承遊び、童謡に興味を抱き、関連する書籍などを読む。また、実際に行事等に参加して、見識を深めるように心がける。

評価方法
レポート80%。講義内課題20%。

教科書	参考図書
各担当教員がプリント等を用意する。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれが系統的な講義なので、欠席しないようにする。各担当の講義を三回休んだ時点で、単位取得の可否に関わる事象が発生するので十分注意すること。

01	オリエンテーション・各担当から講義の概要説明
02	児童文化とは・カルタ作り①（杉山）
03	児童文化の歴史・カルタ作り②（杉山）
04	積木の特徴・カルタ作り③（杉山）
05	伝承遊び・あやとり（杉山）
06	素話の魅力と保育者の準備　（杉山）
07	保育における童謡の必要性について学ぶ（緑川）
08	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める①（伝統的作品）（緑川）
09	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める②（伝統的作品）（緑川）
10	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める③（現代的作品）（緑川）
11	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める④（現代的作品）（緑川）
12	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（春）（太田）
13	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（夏）（太田）
14	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（秋）（太田）
15	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（冬）（太田）
16	保育現場における【フォークロア】の効果的利用について学ぶ　（太田）

2022年度シラバス

科目名:音楽劇	担当者:高田 吉朗・高須 裕美	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、オムニバス形式で、造形表現、音楽表現、身体表現、言葉を駆使した総合表現を学ぶ。子どもが物語の世界と意欲的に関わり、保育者の表現によりイメージを膨らませることの重要性や保育者自身の表現力を、親子への一般公開により、実践的に経験する。

授業の到達目標
保育者の実践的な表現力とその技術を学ぶ。言葉の未発達な子どものエージェンシー（前向きで主体的なやる気・行動）の基礎を、保育者の感性豊かな表現によって育成することの重要性を認識できるようにする。また共同的なプロジェクトを立案・計画して行動する汎用性を実践的に学ぶ。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
総合表現では、授業外での打ち合わせ、リハーサル、自主的な練習の積み重ねが必須である。

評価方法
「音楽表現・造形表現」における参加態度のプロセス評価50%、表現力に関する音楽・造形分野からの評価20%、一般公開発表での参加態度のプロセス評価30%

教科書	参考図書 「幼稚園教育要領」、「認定こども園教育・保育要領」並びに「保育所保育指針」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の表現力を高めるために、これまでの総合表現映像を視聴したり、造形物に触れたりする経験をすること。

01	音楽劇とは（高須・高田）
02	音楽劇の計画・グループ分け（高須）
03	音楽劇の計画・グループ分け（高田）
04	舞台や衣装の制作（高田）
05	脚本制作と読み合わせ・音と音楽の探索（高須）
06	舞台や衣装の制作（高田）
07	脚本制作と読み合わせ・音と音楽の探索（高須）
08	舞台や衣装の制作（高田）
09	通し稽古と制作/総合表現の議論（高須）
10	通し稽古と制作（高須・高田）
11	通し稽古と制作（高須・高田）
12	リハーサル（高須・高田）
13	発表（高須・高田）
14	発表（高須・高田）
15	片付けと発表の鑑賞（高須・高田） 発表の鑑賞と今後の課題についての議論（高須・高田）
16	まとめ（高須・高田） 今後の課題とまとめ

科目名:食育	担当者:八幡 美保	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　心身ともに健康な生活を送るためには、適切な栄養摂取と望ましい食習慣の形成が必要である。そのためには、保育者として子どもの発達期に応じた食生活を把握するとともに、栄養素と生体内での必要性を理解した上で、自分自身の食生活を振り返り、状況に応じて改善できる姿勢を養う。それを踏まえて食育媒体を作成し、発表する。本講義は、教科書とプリントに沿って進行し、必要に応じて学生同士のディスカッションにて理解を深めること。

授業の到達目標
　小児期の習慣や子どもを取り巻く環境がその後の発達に大きく関わることから、保育者として子どもの発達期に応じた食生活のあり方を理解し、保育現場で活用できる能力を身につける。
1.　基礎的な食品成分と栄養素の知識を身につけることができる
2.　子どもの各発達段階の特徴と食生活を理解することができる
3.　特別な配慮が必要な子どもの食と栄養を理解し、説明ができる
4.　課題を見つけ、実践的な食育活動に活用することができる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1.　関連するガイドラインやデータを読み、多様化する子どもの食と栄養について理解を深めて、提示されたレポート課題に取り組むこと
2.　保育実習・教育実習にて子どもの給食・おやつの様子、食育活動やアレルギー対応の取り組みをよく観察する
3.　普段の自分自身の食生活を見直すとともに、栽培・収穫体験や調理にも取り組むこと
4.　食に関する新聞やインターネットの情報記事に関心を持つ

評価方法
　確認テスト（50%）、レポート課題（40%）、学習意欲（10%）を総合して評価する

教科書	参考図書
子どもの食と栄養演習　第5版　小川雄二編著　建帛社	保育所保育指針解説書、その他適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　食材・食事に興味を持ち、料理をする機会をもつ

01	子どもの健康と食生活、保育所における食育の意義と目的の基本的な考え方
02	栄養素の基本的概念と栄養素の種類・機能
03	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活、妊娠期の栄養
04	幼児期の心身の発達と食生活
05	学童期の心身の発達と食生活、家庭における食事と栄養
06	疾病および体調不良、食物アレルギーのある子どもへの対応
07	食育媒体の発表
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	離乳食演習Ⅰ　離乳の進め方
18	離乳期演習Ⅱ(5～6 、7～8ケ月)
19	離乳期演習Ⅲ(9～11 、12～18ケ月)
20	幼児食演習Ⅰ（幼児期の栄養の特徴）
21	幼児食演習Ⅱ（幼児期の食事実践演習）
22	食物アレルギー演習Ⅰ食物アレルギー演習Ⅰ
23	食物アレルギー演習Ⅱ
24	間食演習Ⅰ
25	間食演習Ⅱ
26	行事食演習Ⅰ

27	行事食演習Ⅱ
28	幼児期弁当演習
29	子どもの食と栄養総合演習
30	子どもの食と栄養総合演習
31	子どもの食と栄養のまとめ

科目名:海外の保育と英語	担当者:内田 政一	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:専攻科留学タイプに進学を希望する学生は履修すること。ただし、専攻科に進学しない学生も海外の多様な保育文化について学修したい学生の受講を歓迎する。		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、「海外の保育と英語」という科目から、海外の保育について学習して行きます。教育、保育に関しては、国により多様です。日本での保育のみならず、他の海外諸国では、どのような概念を基盤に保育に取り組んでいるのか、具体的な実例を提示しながら考えて行きたいと思います。とりわけ、多文化共生を重んじるオーストラリアやニュージーランドの保育を取り上げ、ペアワーク、グループワーク等を用いたアクティブラーニングの手法を使用し、異文化や他者といった異なるものを理解する点に焦点を当てて行きたいと思います。このような点から、知識のみならず、主体的に考える力を養います。また世界の人と理解するためには英語力も重要となります。保育の現場における英語についても実践的なトレーニングを取り入れて行きます。

授業の到達目標
この授業では、海外の教育や保育に対しての理解を深めることを目的とします。また、具体的な実例を通して異文化や他者といった異なるものを理解し、保育現場における英語力を身につけます。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業外においても自ら積極的に海外のトピックや英語に触れるようにしておきましょう。

評価方法
授業への積極的な参加度30%、小テスト20%、プレゼンテーション20%、まとめテスト30%

教科書	参考図書
特になし（適宜、ハンドアウトを配布する）	その都度、授業内で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業を欠席した際のフォローアップは（授業の進度の確認や配布物・宿題）は、各自で授業が始まる前に済ませておいてください。連絡方法等は、授業内で伝えます)

01	Course introduction / ガイダンス
02	海外の保育のイメージと実際
03	English for childcare : words and phrases
04	多文化主義とオーストラリアの教育
05	オーストラリアの保育の実際
06	EYLFについて考える
07	English for childcare : Expression
08	ニュージーランドの保育
09	テファリキについて考える
10	English for childcare : Conversation
11	アメリカ、ヨーロッパの保育
12	アジアの保育
13	Presentation
14	Presentation
15	確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育実習Ⅱ（事前・事後指導）	担当者:吉田 真弓・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
実習園においてより効果的な実習が展開できるよう、園の役割や仕事の内容の大枠を前もって把握し理解するとともに、実習日誌の書き方・指導案の立て方を具体的に学ぶ。また実習後は、自己課題の振り返りやレポートのまとめをしながら、実習の学びを実践力として活かせるようにしたり、自分の今後の課題を明確にしたりする。

授業の到達目標
実習の意義と目的を明確に理解し、保育について総合的に学ぶ。また、実習の円滑な実施のために必要な知識や技術を学ぶとともに、事前の準備をし、実習の課題を明確にする。実習の体験後には、自己評価を通して今後の学習課題を明確にする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
〇豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
幼児の発達段階を復習するとともに、教材の作成、絵本・紙芝居の読み聞かせやピアノの練習等、実習に必要な準備を計画的に自ら進めていくようにする。

評価方法
事前指導（自己課題・指導案）30%　　事後課題（自己課題の振り返り、実習日誌、レポート）50%　　授業態度20%

教科書	参考図書
実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
やむをえず欠席した場合は、必ず指示された課題に取り組むこと。
今までの実習を振り返り、自己課題を明確に持って実習に臨むこと。

01	オリエンテーション、教育実習Ⅱの意義と目的
02	実習の目標と課題
03	教育実習についての理解（幼稚園の機能・幼稚園の生活・教育実習の内容）
04	教育実習についての理解（観察・参加・部分実習・指導実習について）
05	保育実習の反省と教育実習の課題（教育実習に反映できる反省と自己課題の明確化）
06	実習生としての実習態度を考える
07	保育現場の実際について
08	指導案の書き方（１）
09	指導案の書き方（２）
10	指導案の書き方（３）
11	指導案の書き方（４）
12	事前訪問の仕方
13	教育実習の直前指導（実習への心構え・具体的注意事項）
14	実習後の指導（実習における学びと自己課題の振り返り）
15	実習後の指導（実習の総括・実習アンケートによる指導）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育実習Ⅱ	担当者:吉田 真弓・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育実習の意義や目的を理解し、保育現場で保育を体験的実践的に学ぶ。学内での指導をもとに、実習園において３週間の日程を様々な形で経験するとともに、自分自身の課題を再確認する機会とする。

授業の到達目標
自分の課題に向けて積極的に取り組むとともに、現場の保育者の指導を真摯に受け止め、その指導を自分自身の実習に反映させ、探求的で責任のある実習態度で臨み、実りある実習が実現することを目標とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習日誌の書き方、指導案の書き方等を復習し、理解を深めておく。また、絵本・歌（ピアノ）・ペープサートやパネルシアター等の教材の準備を進めておく。

評価方法
各実習園からの評価・所見と、実習日誌・実習の振り返り・自己評価等を参考にして、総合的に評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習においては精神力も体力も必要とするので、常に健康管理に気を付ける。また、保育者として（子どものモデルとして）ふさわしい言葉づかい、生活態度を常に意識した日常生活を過ごすようにして３週間の実習に臨むようにする。

01	事前訪問 　園の概況・教育方針・指導計画・勤務時間・施設備品等の使用・安全対策・配当学年・歌・服装・持ち物等、多岐にわたるオリエンテーションを受け、実習生としての心の準備とともに教材の準備をする。 実習１週目（観察実習を主とする） 　登園から降園までの１日の保育の流れを把握する。環境の構成・保育者の関わり・保護者への対応・幼児理解等について、２週目以降の実習に活かされるよう、深く綿密な観察を行い実習日誌に記述する。 実習２週目（観察及び部分参加実習を主とする） 　１週目の観察実習に加え、子どもと保育者・子どもと保護者・子ども同士・子どもと環境・意図性のある保育者の援助等、課題をもって観察するとともに、担当指導者の指示に従って様々な部分実習を体験する。 実習3週目（部分及び１日実習を主とする） 　1・2週目における観察・部分実習に対する反省評価を踏まえ、この週では指導実習として1日を任された実習を1～2回行う。指導計画の立案も含めて、環境の構成・教材準備等すべてを責任保育者として行う。また、反省会において、自分の保育の振り返りをし、指導を受けながら保育に対する理解を深める。 その他（各園の園運営に参加） 　子育て支援活動・園行事・職員会等の園運営にも積極的に参加の機会をもつ。 事後訪問（実習終了後１週間以内に） 　３週間の実習指導に対するお礼を兼ねて、実習日誌を提出する。また後日、実習日誌の受け取りをする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習ＩＢ（事前・事後指導）	担当者:杉山 実加・未定B・未定C	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育での実務経験を踏まえ、保育所における保育士の役割について具体的な話題から、事前に実習の心構えに導く。

保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解する。学内で履修した授業の成果をふまえ、保育現場での保育を体験的かつ実践的に学ぶために必要な準備について、講義や資料を通して具体的に知り実践する。子どもの理解や保育の理解が深まるように、実際に保育の記録、指導計画を書いてみる。また、保育に必要な教材について調べ、活用方法を理解し実践してみる。

授業の到達目標
・保育所の役割や機能や、保育士の職務内容と職業倫理について理解する。（DP）
・実習生として自己課題を持ち、目的をもって実習に臨む姿勢を持つ。（DP）
・子どもに関心をもって観察や関わりをすることの重要性を理解する。（DP）
・記録を通して子ども理解をすることや保育実践のための指導案を書くことなどに向上心をもって取り組む。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
付属幼稚園実習や施設実習の経験や気づき・学びを整理して保育実習における自分の課題を立てる。保育所の役割や子どもとかかわることについて積極的に調べたり、保育の教材研究を進めるなど、自主的に保育関連のことを学修すること。

評価方法
提出課題(40%)、授業の受講態度(30%)、授業の振り返り(30%)を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版) 保育者になる人のための実習ガイドブック	保育所保育指針　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
あらゆる側面から保育について考える習慣を身につけ、自主的に実習準備ができるように心がけること。

01	保育実習の意義（実習の目的、実習の概要、留意事項）・保育実習関係書類作成等の事務手続き
02	保育理解・子ども理解・実践の省察のための記録について（一日の記録）
03	保育理解・子ども理解・実践の省察のための記録について（エピソード記録）
04	保育の計画と実践（部分指導案の考え方）
05	保育の計画と実践（立案の手順）
06	自己課題について
07	実習直前指導(心構えと準備の確認)
08	実習の振り返り
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育実習Ⅱ（事前・事後指導）	担当者:嶌田 弘子・未定B・未定C	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育園での実務経験を踏まえ、より実践的な保育士の職務内容について理解が深まるようにし、記録や計画的保育に意欲的に取り組めるよう事前に実習の心構えに導く。

保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解するとともに、これまでの実習及び学内で履修した授業の成果をふまえ、保育現場での保育を体験的かつ実践的に学ぶことができるように、必要な準備について、講義や資料を通して自主的に行う。子どもの理解や保育の理解が深まるように、保育の記録や、指導計画を実践的に書く。また、保育に必要な教材を自主的に調べ工夫しながら準備する。

授業の到達目標
・保育所保育について、これまでの実習経験を踏まえながら自己課題を設定することができる（DP）
・乳幼児の発達特徴を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。（DP）
・記録、指導案の書き方を理解し、実習に向けて準備や練習を行うことができる（DP）
・実習の振り返りと発表を通して自らの保育者としての成長と課題を理解し、改善しようとすることができる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
今までの実習をふり返り、授業の成果を踏まえて、実習において保育をより実践的に体験できるように実習の自己課題を明確にしておく。子どもとのかかわりや保育現場とのかかわりを自主的に行い、保育への関心をより深めていくようにすること。

評価方法
提出課題(40%)授業の受講態度(30%)、実習準備への向き合い方と内容(30%)を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者としての感性を日頃から持てるように視野を広げ、様々な活動に進んで取り組んでみること。

01	教育実習Ⅱの振り返りから考える保育実習Ⅱの課題について
02	保育実習Ⅱの意義（実習の目的・実習の概要・留意事項）・関係書類作成等
03	記録・自己課題の確認と再考
04	保育の計画と実践（責任実習の指導案の立案）
05	実習中の学びや対応について
06	保育実習Ⅱの振り返り
07	実習の意義や学び、課題の伝達・発表
08	実習の総括と資格者としての心構え
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:杉山 実加・未定B・未定C	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育所ならびに施設の概要を整理し、実習の目的を理解する。学内での授業の内容を踏まえ、保育現場において保育を体験的かつ実践的に学ぶ。

授業の到達目標
・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。（DP）
・観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。（DP）
・既習の教材内容を踏まえ、子どもの保育、保護者との関係について学ぶ。（DP）
・保育の計画、観察の記録 の仕方及び自己評価について具体的に理解する。（DP）
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
付属幼稚園実習やボランティア体験等の気づきや学びを整理して自分の実習課題を立てること。子どもの発達について整理し、わからないところを復習すること。教材や教材の活用の仕方について 考え、自分でできることを積極的に進めること。

評価方法
実習園の評価、実習に関連する課題、実習の振り返りと自己評価を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　全国保育士会倫理綱領　他随時指定

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
元気に挨拶する。何事も積極的に取り組むようにすること。

01	1保育所の役割と機能について知る(一日の流れ、保育の展開) 2子どもを理解する(子どもの観察と記録の視点、発達過程、援助やかかわり) 3保育内容・保育環境(計画に基づく保育内容・発達過程に応じた保育内容遊びや保育環境・健康と安全) 4保育の計画・観察・記録(保育課程、指導計画の理解と活用・記録に基づく省察と自己評価) 5専門職としての保育士の役割と職業倫理（保育士の業務内容・職員間の役割分担と連携・保育士の役割と職業倫理)
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅱ	担当者:嶌田 弘子・未定B・未定C	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習の意義や目的を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育・保護者支援など、保育の学びを具体的にする。保育実習Ⅰでの経験や既習の教科内容との関連性をふまえて実践する。観察や記録、自己評価をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。保育士の専門性や職業倫理について十分理解する。

授業の到達目標
・保育を総合的に学び、実践できるようにする。 (DP)
・子どもの状態に応じて適切にかかわることが出来るようにする。 (DP)
・保育の計画が具体的に立案でき、保育の表現技術を生かして実践できるようにする。 (DP)
・保育の観察、記録、自己評価に基づく改善ができる。 (DP)
・事後指導や面談を通して保育の自己課題が明確になる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・今までの実習を振り返り、保育実習Ⅱにおける自己課題を明確にする。
・実習中は、自己評価に基づく改善をしながら、より深みのある体験的学習ができるようにする。

評価方法
実習園の評価・実習に関連する課題・実習の振り返りと自己評価を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き （名古屋短期大学実習委員会作成版）	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領 全国保育士会倫理綱領 他随時指定

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
これまでの実習、自主学習を生かして、自主的かつ積極的に実習に取り組めるようにすること。教材研究やピアノの練習など自主学修を怠らないこと。

01	実習の自己課題を実習先に提示し、目的を明確にして実習に取り組む。実習の事前準備や実習園とのオリエンテーションを基にしてより具体的に保育を学ぶ。子どもの保育、保護者支援について学び、その意味を理解する。子どもの状態に応じた適切な援助やかかわりができるようにする。準備した教材を保育に活かすための表現技術を工夫し実践する。保育の観察に基づく具体的な計画を立てて実践し、自己評価する。保育実践について自己評価したり助言されたことをいかして改善し、計画の再構成をする。 保育士の専門性や職業倫理について理解を深める。

科目名:保育実践演習Ⅰ	担当者:上原 隆司・太田 昌孝・小川 絢子・鬼頭 弥生・小柳 雅子・近藤 茂之・嶌田 弘子・杉山 実加・高須 裕美・高田 吉朗・新沼 英明・平野 朋枝・山下 直樹・八幡 美保・吉田 真弓・吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習

免許・資格:保育士資格	開講時期	前期
	配当学年	2
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は、保育実践演習に主体的に取り組み、相互に研究交流、研究展開を行います。また、野菜の栽培や様々な集団活動は、保育者としての資質向上に欠かせないものですので、積極的に取り組むことが望まれます。

授業の到達目標
１　自己研究能力育成、２　発表・討論・表現能力の形成、３　相互協力・協働能力の形成が期待されます。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的な参加をしてください。研修旅行や研修合宿も行います。

評価方法
提出された論文の内容的評価はもちろんのこと、論文完成に至るまでの各グループにおける個々の役割遂行や一連の活動への参加状況によって評価します。卒業論文のみならず、演習授業への積極的、自主的態度が望まれ、その体動についても評価します。また、定期的なゼミファイルの提出を求め、ファイルの状況、提出状況も評価に加えます。

教科書 必要に応じて指示します	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
上記についての詳細は、初回のゼミガイダンスにて配布される資料に掲載されているので、各自よく目を通して不明な点がないようにしておくこと。それらの資料は毎回のゼミに必ず持参すること。また、個別ゼミだけがゼミの時間ではなく、「研究法入門」「就職懇談会」なども大切なゼミの一環です。どれも逃さずに参加してください。

01	保育実践演習ガイダンス
02	個別ゼミ１　1年間の運営方針や自己紹介など
03	個別ゼミ２　卒業研究テーマの再確認等
04	ゼミ交流会
05	個別ゼミ３　卒業研究グループ編成
06	研究法入門Ⅲ
07	個別ゼミ４　研究活動開始及び個別面談等
08	個別ゼミ５　各グループの運営委員決め
09	個別ゼミ６　各グループの研究活動
10	個別ゼミ７　各グループの研究活動
11	個別ゼミ８　各グループの研究活動
12	個別ゼミ９　各グループの研究活動
13	個別ゼミ１０　各グループの研究活動
14	個別ゼミ１１　各グループの研究活動
15	個別ゼミ１２　卒業論文中間発表会
16	個別ゼミ１３　各グループの研究活動
17	個別ゼミ１４　各グループの研究活動
18	個別ゼミ１５　各グループの研究活動
19	個別ゼミ１６　各グループの研究活動
20	個別ゼミ１７　各グループの研究活動
21	個別ゼミ１８　各グループの研究活動
22	個別ゼミ１９　各グループの研究活動
23	個別ゼミ２０　各グループの研究活動
24	個別ゼミ２１　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
25	個別ゼミ２２　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
26	個別ゼミ２３　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
27	個別ゼミ２４　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
28	就職懇談会

29	個別ゼミ２５　卒業論文のまとめ　提出
30	個別ゼミ２６　1年のまとめ
31	個別ゼミ２７　1年のまとめ

科目名:保育実践演習Ⅱ	担当者:上原 隆司・太田 昌孝・小川 絢子・鬼頭 弥生・小柳 雅子・近藤 茂之・嶌田 弘子・杉山 実加・高須 裕美・高田 吉朗・新沼 英明・平野 朋枝・山下 直樹・八幡 美保・吉田 真弓・吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習

免許･資格:保育士資格	開講時期	後期
	配当学年	2
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は、保育実践演習に主体的に取り組み、相互に研究交流、研究展開を行います。また、野菜の栽培や様々な集団活動は、保育者としての資質向上に欠かせないものですので、積極的に取り組むことが望まれます。

授業の到達目標
１　自己研究能力育成、２　発表・討論・表現能力の形成、３　相互協力・協働能力の形成が期待されます。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的な参加をしてください。研修旅行や研修合宿も行います。

評価方法
提出された論文の内容的評価はもちろんのこと、論文完成に至るまでの各グループにおける個々の役割遂行や一連の活動への参加状況によって評価します。卒業論文のみならず、演習授業への積極的、自主的態度が望まれ、その体動についても評価します。また、定期的なゼミファイルの提出を求め、ファイルの状況、提出状況も評価に加えます。

教科書 必要に応じて指示します	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
上記についての詳細は、初回のゼミガイダンスにて配布される資料に掲載されているので、各自よく目を通して不明な点がないようにしておくこと。それらの資料は毎回のゼミに必ず持参すること。また、個別ゼミだけがゼミの時間ではなく、「研究法入門」「就職懇談会」なども大切なゼミの一環です。どれも逃さずに参加してください。

01	保育実践演習ガイダンス
02	個別ゼミ１　1年間の運営方針や自己紹介など
03	個別ゼミ２　卒業研究テーマの再確認等
04	ゼミ交流会
05	個別ゼミ３　卒業研究グループ編成
06	研究法入門Ⅲ
07	個別ゼミ４　研究活動開始及び個別面談等
08	個別ゼミ５　各グループの運営委員決め
09	個別ゼミ６　各グループの研究活動
10	個別ゼミ７　各グループの研究活動
11	個別ゼミ８　各グループの研究活動
12	個別ゼミ９　各グループの研究活動
13	個別ゼミ１０　各グループの研究活動
14	個別ゼミ１１　各グループの研究活動
15	個別ゼミ１２　卒業論文中間発表会
16	個別ゼミ１３　各グループの研究活動
17	個別ゼミ１４　各グループの研究活動
18	個別ゼミ１５　各グループの研究活動
19	個別ゼミ１６　各グループの研究活動
20	個別ゼミ１７　各グループの研究活動
21	個別ゼミ１８　各グループの研究活動
22	個別ゼミ１９　各グループの研究活動
23	個別ゼミ２０　各グループの研究活動
24	個別ゼミ２１　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
25	個別ゼミ２２　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
26	個別ゼミ２３　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
27	個別ゼミ２４　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
28	就職懇談会

29	個別ゼミ２５　卒業論文のまとめ　提出
30	個別ゼミ２６　1年のまとめ
31	個別ゼミ２７　1年のまとめ

2022年度シラバス

科目名:英語	担当者:新谷 敦子・コツェヴァ桂 乃良・村木 恭子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、ディプロマポリシーにある「国際的な視野で地域社会に貢献できる者」と関連している。グローバル化社会の中で、英語を使って子どもや保護者とコミュニケーションを取ったり、積極的に保育活動に英語を取り入れることが出来ることを目的とする。授業ではリスニング・スピーキングに重点を置き、様々な挨拶表現や子ども達に英語を教える際に必要な表現を学習し、さらにグループでスキット練習を行い使えるようにします。【AL】

授業の到達目標
これまでに学んできた英語の復習を行いながら、基本的な挨拶表現を理解し、使えるようになる。また、保育現場で使える英語の語彙を増やし、英語で基本的な指示を子どもに対してできるようになる。(DP)さらに、子どもと共に楽しめるような英語の歌や絵本に実際に触れ体験することで、子どもと英語を楽しむ事について考え、さらに各自で探索することができるようになる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業前には、次回の授業で学習する範囲について、必ず予習（筆記・音読）を行い、授業内容を把握するようにしてください。また、疑問な点や確認したい点を合わせて明確にしておいてください。授業後は、予習及び授業内容を振り返り、復習（筆記・音読）を行いましょう。合わせて授業ノートの振り返りを行い、疑問な点が残っていないかもすぐに確認しましょう。また、教科書以外にも幼保英語検定の参考図書や英語の絵本等、図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。自己学修として必要な時間数については、毎週2時間程度です。

評価方法
授業への参加態度　50%　小テスト及び期末試験、プレゼンテーション等の課題　50%（詳細は、各担当者より初回の授業で説明します）また、課題に対するフィードバックは、授業内やOhka moodle等を活用して行う。

教科書	参考図書
宮田学編・高橋妙子著（2014)『保育の練習帳：単語&フレーズを覚えよう』萌文書林	副教材及び参考図書については、授業内で各担当者より指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	クラス別オリエンテーション、幼保英語検定の紹介等
02	Lesson 1 & Lesson 2 （保育所に関連する語彙・表現）
03	Lesson1-2の復習, Lesson 3（挨拶表現、家族に関する語彙・表現）
04	Lesson 4（保育室に関する語彙・表現）, 幼保英語検定について（１）
05	Lesson 5（時間と数字）, プレゼンテーションについて
06	Lesson 6（園児の持ち物に関する語彙・表現）, プレゼンテーションについて
07	Lesson 3-6の復習, プレゼンテーション
08	Lesson 7 & Lesson 8（保育所周辺の道順に関する語彙・表現）
09	Lesson 9 & Lesson 10（子どもの遊びに関する語彙・表現）
10	Lesson 11（天気に関する語彙・表現）・英語の絵本の紹介
11	Lesson 7-11の復習, Lesson 12（感情・体調に関する語彙・表現）
12	Lesson 13（保育の日課）,幼保英語検定について（２）
13	Lesson 15 & Lesson 16（ランチに関する語彙・表現）
14	Lesson 17（トイレに関する語彙・表現), 夏休みに向けて（旅行や海外研修で使える英語表現）
15	まとめ
16	期末試験

科目名:保育の英語	担当者:新谷 敦子・コツェヴァ桂 乃良・村木 恭子・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、ディプロマポリシーにある「国際的な視野で地域社会に貢献できる者」と関連している。グローバル化社会の中で、英語を使って子どもや保護者とコミュニケーションを取ったり、積極的に保育活動に英語を取り入れることが出来ることを目的とする。授業ではリスニング・スピーキングに重点を置き、様々な挨拶表現や子ども達に英語を教える際に必要な表現を学習し、さらにグループでスキット練習を行い使えるようにします。【AL】

授業の到達目標
前期の「英語」に引き続き、これまでに学んできた英語の復習を行いながら、様々な挨拶表現を理解し、使えるようになる。また、保育現場で使える英語の語彙を増やし、英語で具体的な指示を子どもに対してできるようになる。（DP）さらに、子どもと共に楽しめるような英語の歌や絵本に実際に触れ体験することで、子どもと英語を楽しむ事について考え、さらに各自で探索することができるようになる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◯保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業前には、次回の授業で学習する範囲について、必ず予習（筆記・音読）を行い、授業内容を把握するようにしてください。また、疑問な点や確認したい点を合わせて明確にしておいてください。授業後は、予習及び授業内容を振り返り、復習（筆記・音読）を行いましょう。合わせて授業ノートの振り返りを行い疑問な点が残っていないかもすぐに確認しましょう。また、教科書以外にも幼保英語検定の参考図書や英語の絵本等は、図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。自己学修として必要な時間数については、毎週2時間程度です。

評価方法
授業への参加態度　50%　小テスト及び期末試験、プレゼンテーション等の課題　50%（詳細は、各担当者より初回の授業で説明します）また、課題に対するフィードバックは、授業内やOhka moodle等を活用して行う。

教科書	参考図書
宮田学編・高橋妙子著（2014）『保育の練習帳：単語＆フレーズを覚えよう』萌文書林	副教材及び参考図書については、授業内で各担当者より指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	クラス別オリエンテーション、幼保英語検定の紹介等
02	Lesson 18（連絡帳，子どもの様子に関する語彙・表現），幼保英語検定について（１）
03	Lesson 19（けんかに関する語彙・表現）
04	Lesson 20（体の部位に関する語彙・表現），英語の歌や絵本の紹介
05	Lesson 21 & Lesson 22（怪我と病気、救急処置に関する語彙・表現）
06	Lesson 18-22の復習，幼保英語検定について（２）
07	Lesson 23 & Lesson 24（電話応対に関する語彙・表現）
08	Lesson 25（遠足に関する語彙・表現），プレゼンテーションについて
09	Lesson 26（年間行事予定），プレゼンテーションについて
10	Lesson 23-26の復習，プレゼンテーション
11	Lesson 14 （乳児に関する語彙・表現），クリスマスの歌
12	Lesson 27 & Lesson 28（乳児に関する語彙・表現），クリスマスの歌
13	Lesson 29（卒園に関する語彙・表現）
14	Lesson 30（祝日と記念日に関する語彙・表現）
15	まとめ
16	期末試験

2022年度シラバス

科目名:フランス語Ⅰ	担当者:田村 明子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　フランス語を初めて学ぶ人を対象としたクラスです。日常会話表現をもとに、ペアやグループでの会話練習、聴解・読解、作文などの実践的な活動を行いながら、基礎的なフランス語運用能力の習得を目指します。またコミュニケーションに必要な初級文法やフランス文化も学びます。なおこの授業では、グループ・ワークが基本となります。【AL】
　前期はあいさつ、自分に関する基本情報（名前・国籍・職業・家族・好きなもの等）を伝えるための表現を学びます。

授業の到達目標
－自分や身の回りのことがらについて、フランス語で簡単なやりとりができる。
－フランス語の基本的な文法・文構造を理解する。
－フランスの文化に触れることで、自文化・異文化に対する多角的な視野を持つ。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：新しく習うレッスンの音声をしっかり聞き、発音練習しましょう。
事後学修：習ったレッスンの箇所について、重要表現や文法のポイントを見直しましょう。課題にしっかり取り組みましょう。

評価方法
授業への参加度（グループワークなどの授業活動や課題への取り組み方）：40%
確認テスト：60%
課題に対するフィードバックの方法：Ohka moodle等により伝達する

教科書	参考図書
『新装　カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社	なし。適宜補助教材プリントを配布します。辞書は必要ありません。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
外国語は使えば使うほど上達します。積極的に授業に参加し、クラスメイトと協力しながら、楽しく学びましょう。
わからないところがあるときはそのままにせず、教師やクラスメイトに質問しましょう。
通学時間などの「すきま時間」を活用し、毎日フランス語に触れる機会を作りましょう。

01	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについての説明）、Leçon 1 (1) ：あいさつ、アルファベ
02	Leçon 1 (2) ：自分の名前を言う　　主語人称代名詞、動詞 être
03	Leçon 2 (1) ：職業を言う　　名詞の性・数
04	Leçon 2 (2) ：住んでいるところを言う　　-er動詞の直説法現在、数詞1～30
05	Leçon 3 (1) ：国籍を言う　　名詞の性・数、不定冠詞、否定文
06	Leçon 3 (2) ：話せる言語を言う　　-er動詞 parler、数詞30～69
07	Leçon 4 (1) ：年齢を言う　　動詞 avoir
08	Leçon 4 (2) ：兄弟の有無、持っているものについて話す　　否定のde、疑問文
09	Leçon 5 (1) ：人物を描写する　　所有形容詞、形容詞の性・数
10	Leçon 5 (2) ：疑問詞 (1) qui, où, comment, quel
11	Leçon 6 (1) ：ものを位置づける　　場所を表す語句、定冠詞、縮約
12	Leçon 6 (2) ：疑問詞 (2) Qu’est-ce que　　数詞70～100
13	Leçon 7 (1) ：好みについて話す　　代名詞ça、形容詞の性・数一致、形容詞の位置
14	Leçon 7 (2) ：好き嫌いの程度を表す　　Il y a～
15	前期のまとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:フランス語Ⅱ	担当者:田村 明子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　フランス語を初めて学ぶ人を対象としたクラスです。日常会話表現をもとに、ペアやグループでの会話練習、聴解・読解、作文などの実践的な活動を行いながら、基礎的なフランス語運用能力の習得を目指します。またコミュニケーションに必要な初級文法やフランス文化も学びます。なおこの授業では、グループ・ワークが基本となります。【AL】
　後期は天候、習慣（身に付けるもの、スポーツ、食習慣、日々のスケジュール）、過去の出来事についてやりとりするための表現などを学びます。

授業の到達目標
－自分や身の回りのことがらについて、フランス語で簡単なやりとりができる。
－フランス語の基本的な文法・文構造を理解する。
－フランスの文化に触れることで、自文化・異文化に対する多角的な視野を持つ。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：新しく習うレッスンの音声をしっかり聞き、発音練習しましょう。
事後学修：習ったレッスンの箇所について、重要表現や文法のポイントを見直しましょう。課題にしっかり取り組みましょう。

評価方法
授業への参加度（グループワークなどの授業活動や課題への取り組み方）：40%
確認テスト：60%
課題に対するフィードバックの方法：Ohka moodle等により伝達する

教科書	参考図書
『新装　カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社	なし。適宜補助教材プリントを配布します。辞書は必要ありません。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
外国語は使えば使うほど上達します。積極的に授業に参加し、クラスメイトと協力しながら、楽しく学びましょう。
わからないところがあるときはそのままにせず、教師やクラスメイトに質問しましょう。
通学時間などの「すきま時間」を活用し、毎日フランス語に触れる機会を作りましょう。

01	前期の復習（Leçon 1～Leçon 7）
02	Leçon 8（1）：身に付けるものについて話す　　比較級、指示形容詞
03	Leçon 8（2）：天候について話す　　人称代名詞「～に」
04	Leçon 9（1）：食習慣について話す　　頻度の表現、部分冠詞、動詞 prendre
05	Leçon 9（2）：普段しているスポーツについて話す　　動詞 faire、中性代名詞 en
06	Leçon 10（1）：人を誘う、行く場所を言う　　動詞 aller・venir、縮約
07	Leçon 10（2）：交通手段について話す、所要時間を言う　　動詞 mettre
08	Leçon 11（1）：時刻を言う　　数詞1～60（復習）
09	Leçon 11（2）：一日のスケジュールについて話す　　代名動詞
10	Leçon 12（1）：ある人について情報を得る　　動詞 connaître・voir
11	Leçon 12（2）：自分のアルバイトについて話す　　目的語人称代名詞
12	Leçon 15：近い未来の計画・予定について話す　　近接未来
13	Leçon 14（1）：昨日したことを言う　　複合過去
14	Leçon 14（2）：ヴァカンスにしたことを言う　　複合過去、主語代名詞 on
15	後期のまとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:ポルトガル語Ⅰ	担当者:富松 エミ	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音・挨拶表現・文法等・基礎的能力を身につけます。ブラジルの文化・歴史について・又、日本の幼稚園・保育園・学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても学びます。（音楽・映画・ブラジルの遊び・幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を見て学びます）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば。ブラジル料理の店などを紹介したい。

評価方法
（授業の参加態度・意欲・関心）２０％・提出物２０％・小テスト３０％・プレゼンテーション３０％
フィードバックは、授業時等において、提出物や小テスト、発表やレポート等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書
ブラジルを発見ーブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学者（必修）学生の携帯のアプリケー	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、頑張って楽しい授業をするのでいっしょに頑張りましょう。毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	ポルトガル語のこととブラジルのこと
02	ポルトガル語の文字と発音
03	ポルトガル語の文字と発音練習問題
04	挨拶と簡単な日常会話
05	挨拶・日常会話と発音練習
06	名詞の性と数
07	否定文疑問文
08	ブラジルと日本の違い　・グループ分け
09	4～7の練習問題・グループ発表課題決め
10	グループ発表課題について調査　ser 動詞1
11	グループ発表課題についてまとめ　ser 動詞2・
12	形容詞・グループ発表の準備
13	グループ発表とレポート
14	ブラジルの食文化とブラジルの料理作り
15	会話テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:ポルトガル語Ⅱ	担当者:富松 エミ	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音・挨拶表現・文法等・基礎的能力を身につけます。ブラジルの文化・歴史について・又、日本の幼稚園・保育園・学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても学びます。（音楽・映画・ブラジルの遊び・幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を見て学びます）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば。ブラジル料理の店などを紹介したい。

評価方法
(授業参加態度・意欲・関心)20%・提出物20%・発表30%・期末試験(会話テスト) 30%

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	前期のおさらい
02	所有詞と練習問題
03	命令形と指示詞
04	ＥＳＴＡＲ動詞
05	17～18の練習問題と会話の練習
06	グループで会話作り
07	ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習
08	会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い
09	場所の副詞と時間の言い方
10	20～22の練習問題と会話の練習
11	ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
12	PODER動詞・・ブラジルについてのグループ調べ
13	ブラジルについてのグループ発表
14	ブラジルのお菓子作り
15	会話のテスト
16	

2022年度シラバス

科目名:中国語Ⅰ	担当者:韓 丹	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目標としている。また、視聴覚資料を使って、中国語と文化に対する理解を深めることも目指す。この授業は後期に開講する中国語Ⅱを選択するための必修講義でもある。この授業は名短保育科が掲げるディプロマポリシーの一部である「国際的な視野で地域社会に貢献する」という内容に合致している。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語での挨拶や自己紹介ができるようになり、辞書を使えば、簡単な日常会話も話せるし、優しい文章も読解できるようになることを目標にしている。語学能力のほか、授業を通して中国文化の基本知識を少しずつ習得できることも視野に入る。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも1時間程度必要である。

評価方法
　平常点（授業への参加態度、宿題、小テストなど）　40%
　口頭テスト　10%
　筆記テスト　50%
　提出された課題について、授業中にフィードバックをする。

教科書	参考図書
『大学生のための初級中国語24回』白帝社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡方法は初回の授業時に知らせる。
　勇気を持って失敗を恐れずに。

01	はじめに ようこそ　中国語の基本と声調
02	中国語の単母音、複母音
03	中国語の子音
04	中国語の鼻母音+人称代詞
05	声調の変化　挨拶
06	第5課:名前の尋ね方と答え方
07	「是」の文型と数字の数え方
08	第6課:私はパンを買う
09	動詞述語文と選択疑問文
10	第7課：私は紅茶にする。あなたは？
11	指示代詞と「的」の使い方
12	第8課：あなたは何を買いたいですか？
13	疑問詞疑問文、助動詞「想」
14	復習と口頭テスト
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:中国語Ⅱ	担当者:韓 丹	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:前期に開講した「中国語Ⅰ」を履修した学生が対象である。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目標としている。また、視聴覚資料を使って、中国語と文化に対する理解を深めることも目指す。この授業は前期に開講する中国語Ⅰを選択するための必修講義でもある。この授業は名短保育科が掲げるディプロマポリシーの一部である「国際的な視野で地域社会に貢献する」という内容に合致している。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語で簡単な日常会話を話せること、また、簡単な文章を読めるようになることを目標にしている。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも１時間程度必要である。

評価方法
　平常点（授業への参加態度、宿題、小テストなど）　40%
　口頭テスト　10%
　筆記テスト　50%
　提出された課題について、授業中にフィードバックをする。

教科書	参考図書
『大学生のための初級中国語24回』白帝社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　何事でも、努力すれば収穫がある。
　連絡方法は初回授業時に知らせる。

01	第9課：日本語は難しい？　+前期要点チェック、復習
02	形容詞述語文、反復疑問文
03	第10課：ボールペン何本持っている？
04	量詞、所有を表す「有」
05	第11課：いま何時？
06	時刻、前置詞「在」
07	映画鑑賞：中国の美食と現代社会
08	第12課：今日は何月何日何曜日？
09	連動文、疑問詞「怎么」
10	第13課：郵便局の向かい側に何がある？
11	方位詞、存在を表す動詞「在」と「有」
12	第14課：私たちは準備できた
13	前置詞「给」、動詞の重ね型
14	復習+口頭テスト
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:山下 玲香	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
他者とかかわりをもちながら問題発見と解決に向けて、バドミントンの実践を通してカリキュラムポリシーHCP１の素質を身に付けていく。内容は、バドミントンの実技を中心に、シングルス、ダブルスのゲームを行う。技術として「ハイクリア」、「ドライブ」、「ヘアピン」を習得する。15回目にまとめのテスト（１回）を行う。

授業の到達目標
社会人になっても参加して楽しめるように、バドミントンの技能を習得する。
自分たちで試合を運営できるようになる。
運動を楽しむ習慣を身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力
〇課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業において多くのゲームに参加できるように、基礎的な身体能力を維持・向上させる。

評価方法
授業への参加態度・授業記録・上達度80%、まとめ20%

教科書	参考図書
なし	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動にふさわしい服装（幼稚園実習へ行けるような服装・高校のジャージOK)
・ピアスや指輪、ネックレスなどのアクセサリーはつけてこない
・体育館シューズを必ず持参する

01	体育館の使い方　授業の受け方　レポートの書き方　諸注意　バドミントン用具の説明
02	ウォーキングをしよう（桶狭間・中京競馬場付近）
03	ハイクリアを学ぶ／ハイクリアゲームを考える
04	ハイクリアゲームを教えあう
05	ドライブを学ぶ
06	ドライブを教えあう／ヘアピンを学ぶ
07	シングルスのミニゲーム（縦半面）を実践する
08	シングルスミニゲームを実践する
09	ダブルスを実践する／サイドバイサイド
10	ダブルスを実践する／トップアンドバック
11	ダブルスの簡易ゲームを実践する（7点先取）
12	ダブルスの簡易ゲームを実践する（10点先取）
13	ダブルスの試合①
14	ダブルスの試合②
15	まとめのテスト（教室）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:安藤 晴彦	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
サッカーを楽しむための基礎体力、基礎技術、ルール、戦術を習得し、ゲームができるようになることを目指した授業を展開する。安全やマナー、クラス全員で配慮して楽しく運動する。なおグラウンドや体力を考慮し正式な広さのコートではなく狭くしたコートで行う。
なお、サッカー以外の運動で体力の向上を目指す内容も行う。
授業計画は皆の進捗状況により早まったりゆっくりになったりする事もある。

授業の到達目標
・基礎技術（ドリブル、パス、シュート、リフティング）を習得する。
・サッカーのルールを覚え試合ができるようになる。
・リフティングが１０回出来る技術を身に付けよう。（実技課題）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
常日頃から体調の管理や体力の向上を心がけよう。また、テレビ・ネット等でサッカーの試合を観ることにより、ルールを覚え、技術のイメージトレーニングをし、また戦術を知ったりしよう。

評価方法
平常点（60%）
課題・レポート（20%）
技術（20%）

教科書	参考図書
必要に応じて資料を配布する。	必要に応じて指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
スポーツ・サッカーをするに相応しい服装等で参加する事。特にシューズは重要なポイントである。主にコミュニケーションを通じた実技方式によって授業を展開する。雨天時等のグラウンドコンディションが不良の時は、状況に応じて使える施設で運動したり、視聴覚教材・配付資料を用いて授業を行う。

01	オリエンテーション：授業進行・注意事項の説明　／　身体慣らし
02	基本：体力作り（ウォーキング）
03	基本：ボール慣れ、蹴り方　／　ミニゲーム
04	基本技術：ドリブル、シュート、リフティング　／　ミニゲーム
05	基本技術：ドリブル（方向転換）、ドリブルシュート　／　ミニゲーム
06	基本技術：パス（コントロール）　／　ミニゲーム
07	基本技術：パス（動きながらパス）　／　ミニゲーム
08	基本技術：パス（動きながら受けてシュー）　／　ミニゲーム
09	応用：オフェンスとディフェンス（パス回し）
10	応用：ポジショニング（コート内での役割）
11	応用：ゲームⅠ　／　リフティング①
12	応用：ゲームⅡ　／　リフティング②
13	応用：ゲームⅢ　／　リフティング③
14	応用：ゲームⅣ　／　リフティング④
15	まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:本吉 真寿美	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
選択種目「ダンス」では、現代的なリズムのダンスに取り組む。ダンスの技能の習得を目指す中で、自分の身体機能の向上や健康増進のために主体的に行動する力を身につける（HDP2）。また、仲間と協力して技能の向上に努めたり、グループ作品を創作したりして協働性を養う（HDP4）。さらに、自分なりの表現力を磨くことも、この科目の目的としている。
前半ではダンスの基本動作を学び、繰り返し行うことでダンスに必要な能力を高める。近藤は個人及びグループでの創作と発表を行う。

授業の到達目標
現代的なリズムのダンスにおける基本の動作を習得する。

仲間と協力して作品を完成させ、他者の前で発表する。

運動を楽しむ習慣を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
メディアを活用して多くのダンス作品を視聴する。技能の定着を図るため、週２回以上の自主練習を行う。

評価方法
授業への参加態度・出席日数・提出課題・上達度70%、グループでの発表（試験）30%

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
運動にふさわしい服装と上靴を用意する。

01	しなやかな身体をつくるストレッチ
02	身体をコントロールするための筋力トレーニング
03	リズムどりの基本
04	リズムどりを応用したルーティーン
05	ボディーコントロールの基本
06	ボディーコントロールの応用
07	自己表現と創作（フリーダンス）
08	グループでの創作①選曲、イメージ案出し
09	グループでの創作②振付考案
10	グループでの創作③振付写し
11	グループでの創作④振付写し、反復練習
12	フォーメーション練習①ステップの見直しなど
13	フォーメーション練習②作品の仕上げ
14	総合演習
15	グループでの発表
16	

2022年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:山下 玲香	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、生涯に渡って心身共に健康な生活を送れるよう、必要な知識と行動習慣を身に付ける。さらに社会のあらゆる角度から、より良く生きるために再考すべき課題を健康とスポーツというキーワードから発見・探求していく。

授業の到達目標
現代社会をより健康に生きるためには、健康に関する知識や運動・スポーツへの実践力を身に付けることはもちろんであるが、社会全体に対する意識を高め社会の在り方を考察し、課題を発見・解決する力も必要である。本授業では、個々および社会における課題を健康とスポーツというキーワードを通して発見する。…HDP①
また人々がより人間らしく豊かに生きるために必要な生活行動習慣および考え方について探ることができ、学生自身がその具体的方法を身に付けることを目的とする。…HDP③

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力
〇課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃からスポーツや健康に関する情報について関心をもち、新聞やニュースをよく読んだり聞いたりすること。

評価方法
受講態度・提出課題・ノート類評価:60%　　筆記試験結果:40%　を総合して評価する。（ミニテストを含む）

教科書	参考図書
特になし。レジメはTeams上で配布をする。	教員がその都度連絡する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義内では、みなさんの意見･体験などを発表することや、簡単な実技等を行う場合もある。積極的に参加すること。
レジメは紙面配布しないので、必ずパソコンを持参すること。

01	オリエンテーション　健康とスポーツを学ぶにあたって
02	疲労とストレス
03	痩身と肥満　より健康なカラダ作りを目指して
04	体力・運動能力について　加齢と体力
05	女性の特有の疾患と健康
06	高齢者の健康と運動
07	子どもの体力・運動能力
08	試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:情報処理演習Ⅰ	担当者:上原 隆司・木村 登次・木下 博光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Microsoft Office(Word・Excel・PowerPoint)の基本操作をマスターする。また、保育現場での情報の取り扱いにおける注意点について、事例などをもとに学ぶ。

授業の到達目標
保育の現場や、それを取り巻く環境においても、コンピュータを利用した情報処理技術の活用は必須の能力といえる。園だよりや児童台帳、スライドショー動画などの作成を通じてOfficeソフトの基礎を習得し、将来保育の場面で必要な力の基礎を身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
情報検索やレポートの作成などを通じて日常的にパソコンを使って慣れることが、使い方をマスターするための近道である。授業で学んだ技術は様々な科目の学習活動等において積極的に活用すること。

評価方法
各回で扱う課題への取り組み姿勢 50%、取り組み課題の成果物の完成度（内容理解）50%で総合的に評価します。出された成果物を評価し、完成見本と比べながら陥りやすい間違いなどを伝える形でフィードバックを行います。

教科書	参考図書
これからの保育のためのICTリテラシー＆メディア入門	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は大学のパソコン室で行いますが、担当教員に確認した上で自分のノートパソコンを使用することもできます。ノートパソコンを使用するときはOffice365を予めインストールし、充電をしたものを持ってきてください。

01	ガイダンス、受講環境の確認と設定
02	保育現場での情報の取り扱いとメールマナー
03	Wordの基本操作と表の作り方
04	図や表の入ったWord文書の作成
05	Wordを使ったおたよりの作成
06	総合的なWordの活用
07	Excelの基本操作
08	Excelでの児童台帳の作成とその活用
09	Excelでのグラフの作成
10	総合的なExcelの活用
11	PowerPointの基本操作と発表スライドの作成
12	PowerPointでの発表会プログラムの作成
13	PowerPointでのスライドショー動画の作成
14	総合的なPowerPointの活用
15	データの差し込みと総合的なOfficeソフトの使い方
16	

2022年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:上原 隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
園だよりやお知らせ文書などの作成をはじめとして、パソコンを使用した業務は保育に関わる仕事においてその重要性を増してきている。この授業では情報処理演習Iで修得した内容を保育現場での活用するための方法について演習を通して学ぶ。

授業の到達目標
「パソコンの使い方を理解する」だけではなく、「パソコンを自分の目的に合わせて活用することができる」ようになることを目標とする。授業でやったことだけではなく、それを応用して、自分がこれからやる作業をパソコンを使ってどのように効率化できるかを考え、調べ、実行できるようになることを目指す。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
将来保育者となったときに使えるようにするため、授業で学んだことはしっかりと復習し、確実に身につけること。パソコンの使い方で分からないことがある場合、調べて出てこないことはほぼない。普段からパソコンを使うときには、分からないことがあっても自分で調べ、解決できるようになっておくこと。そうすることでパソコンが活用できるかどうかは大きく変わる。

評価方法
各回で扱う課題への取り組み姿勢 50%、取り組み課題の成果物の完成度（内容理解）50%で総合的に評価します。出された成果物を評価し、完成見本と比べながら陥りやすい間違いなどを伝える形でフィードバックを行います。

教科書	参考図書 これからの保育のためのICTリテラシー＆メディア入門、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は大学のパソコン室で行いますが、自分のノートパソコンを使用することもできます。ノートパソコンを使用するときはOffice365を予めインストールし、充電をした上で持ってきてください。

01	ガイダンス
02	Wordでの図形や画像の利用
03	画像を利用した制作
04	スキャナーを利用したチケット作成
05	名簿データと差し込み印刷
06	差し込み印刷を利用した年賀状作成
07	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り１　レイアウトの変更
08	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り２　計算式を利用した日付の入力
09	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り３　テキストボックスとセルの書式設定
10	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り４　写真の挿入と編集
11	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り５　印刷と印刷の設定
12	お正月の福笑い作り
13	PowerPointでのアニメーションの利用
14	みんなが楽しめる1分アニメーションの作成
15	動画の出力と鑑賞、相互評価
16	なし

2022年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:南 裕一郎	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:パソコン利用		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本演習では、「情報処理演習Ⅰ」で学んだWindowsやオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作をさらに発展・応用させたスキルの習得を目指します。大学では日々のレポート課題、発表レジュメやスライド、就職活動時のメールのやり取りなど、パソコンを使う機会が増えます。また卒業後は、どのような仕事であれ日常的にPCを使用することになります。複雑な作業はスマホよりもPCのほうが有利であることはいうまでもありません。本演習でPC操作方法を学ぶことにより、より高い情報読解力・情報発信力も身につくはずです。

授業の到達目標
保育・幼児教育の現場では業務の効率化が急務とされており、園だよりや日誌、週案・月案などの作成にパソコンを導入する施設が増えています。本演習ではまず、ゲームや長文入力によってタイピング速度の向上を目指します。そのうえで、Wordでの作文やイラスト作成では創造性を、Excelでの表計算では論理的思考力を養います。PowerPointでのプレゼンテーションでは創造性、思考力に加えて表現力（スライドのデザインだけでなく、人前で話す、発表するときのふるまい方など）を身につけます。

【到達目標と深く関連する学科DP】
HDP2【行動力】豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日ごろからパソコン操作に慣れ親しんでおくこと。とくにタイピングについては、できるだけ速くこなせるように練習しておくこと。
スライドの作成方法やプレゼンテーションのテクニックについて紹介した番組を見る回があります。同番組の他の回も各自で見るようにしてください。

評価方法
授業内で課す課題の提出：70%、毎回の受講態度：30%。
以上の各項目について総合的に評価します。

教科書	参考図書
市販教科書は使用しません。毎回、オリジナルのプリント教材や練習用ファイルを配布します。	必要に応じ、授業内で指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での担当者への連絡・質問等は、基本的にはメールまたはMoodleメッセージでおこなってください。

01	オリエンテーション：本演習の目的と意義
02	Eメール（Gmail）のつかいかた
03	Eメールでの文章の作法、添付ファイルを挿入する
04	パソコンとはなにか、Windowsとはなにか、役に立つWindows操作
05	Word応用編①　長めの文章を時間内に入力する
06	Word応用編②　ワードアートを作成する、ページ番号を挿入する
07	Word応用編③　図形や画像を挿入する、フォントの種類や大きさを変更する
08	Word応用編④　縦書きと横書き、作成した文書を印刷する（両面印刷や2アップ印刷など）
09	Excel応用編①　簡単な表をつくる、やや複雑な表をつくる
10	Excel応用編②　セル同士の計算をする、関数基本編（SUM、AVERAGE、COUNTなど）
11	Excel応用編③　関数中級編（IF、VLOOKUPなど）、グラフの作成（棒グラフ、折れ線グラフ）
12	Excel応用編④　グラフの作成（円グラフ、散布図、複合グラフ）
13	PowerPoint応用編①　どういうスライド構成にするか、画像・テキストの挿入
14	PowerPoint応用編②　画面切り替え効果、アニメーション、ノート機能
15	PowerPointを用いたプレゼンテーション（全員）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:日本国憲法	担当者:綾部 六郎	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　日本国憲法については、これまでにも中学校・高等学校の「公民科」の授業などで学んできたはずなので、ここではその復習をしながら、わたしたちが学んでいるのが女子大学であることに対応した、ジェンダー法学的な内容も含むもう少し詳しい内容を学習します。

授業の到達目標
　抽象的な憲法の条文に込められている歴史的な理念と、日常的な出来事のなかに潜んでいる憲法上の問題とを正しく結び付けられることが、憲法を学ぶうえでは大切です。こうした観点に立ったうえで、以下の2点を目標とします。

　1. 古代から存在する法的なるもの（法学知）への理解を深める契機として、まずは日本国憲法についての基礎的な知識を習得して、これからの人生で活用できるようになること（DP）。
　2. 教員採用試験などでの憲法分野の出題に対応できるようになること。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　憲法に限らず法学の学習にとってまず大切なのは、そこで使われる用語の意味や用法を正しく理解することと、法的思惟の背景にある歴史的叡知の存在を把握しようと努めることだと考えています。詳しくは授業の際にお話ししますが、復習として教科書に載っている問題を毎回解答してもらいます。
　予習は教科書の該当箇所の通読です。毎回の授業と予復習を合わせると4時間程度は必要です。

評価方法
1. 確認テストの成績（90%）
2. 受講態度などの勘案（10%）
3. 任意課題の提出（適宜加点する）
★学期末試験についての講評を最終回におこなう予定である。

教科書	参考図書
開講までに指示します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学期末試験などはOhka Moodle上で出題する予定である。

01	ガイダンスや導入テストの実施など
02	憲法総論（憲法史・立憲主義・国民主権・憲法改正など）
03	自己決定権／学問の自由【以下人権論】
04	思想・良心の自由／信教の自由
05	教育を受ける権利／プライヴァシー権
06	表現の自由／集会の自由
07	人権享有主体／法の下の平等
08	両性の平等／職業活動・移転の自由
09	財産権／生存権
10	労働基本権／参政権・選挙制度
11	立法・国会／内閣【以下統治機構論】
12	裁判所・裁判員制度
13	司法権の独立と限界
14	地方自治／条例・住民投票【授業後にオンラインで確認テストを実施予定】
15	授業のまとめなど
16	なし

2022年度シラバス

科目名:異文化研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「異文化研究って何?」「なんだか難しそうな科目名だと思う」例年、1年生から受講前に聞く言葉です。実際は、難しい科目ではありません。保育者としてという以前に一人の人間として視野の広い考え方ができる教育者になってもらいたいと担当者は考えています。世界には様々な異なった視点の価値観や倫理観があります。保育の現場では海外の国から来た子どももいます。大学生として物事への多角的かつ複眼的視野を持つための一つのきっかけとなる教養教育として授業を展開していきます。自らの知識、考え方の幅を広げたい人、海外プログラム参加者予定、就職試験対策等一般教養を強化したい人、等に適した授業です。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれから向かう社会人としてどう生きていくか、一人の人間としてそのように人生計画を組み立てて進んでいくか、なども考えます。【DO】そうした事を考えることは次の進路である就職活動や試験の場においても役立つように広い項目を扱います。この授業を通して学生は自主的かつ能動的に世の中を見る目と考え方が身につくことを到達目標とします。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す
②ニュースを見る、新聞を読むように心がける

評価方法
　授業への参加姿勢30％　授業内レポート30％　期末考査40％　　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書 図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に社会を見つめる意識を持ちましょう

01	異文化研究とは何を学ぶのか
02	１）ステレオタイプ　　２）タブー
03	祭りと伝統 儀式 / 祭り / 伝統～文化の継続性　祭りの意味　名桜祭紹介 儀式 / 祭り / 伝統～文化の継続性　祭りの意味　名桜祭紹介
04	異文化の衝突とは
05	動物と異文化　～　介助犬
06	仏教に見る出家の社会的・文化的価値観とその背景
07	映像文化 ～ その変化と発展
08	ヒンズー教の考え方とそこに根付く文化
09	異文化を超えて～危機管理
10	異文化による死生観の違い
11	日本文化の特徴
12	契約の概念とイスラム教
13	異文化との交流を考える
14	歴史と(異)文化の関係　　歴史とは何か　なぜ保育者になるのか
15	まとめ
16	定期試験

科目名:日本語表現	担当者:太田 昌孝・大竹 有子・浅岡 悦子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　日本語表現に関わる範疇の中でも特に「文章表現」について学ぶ。書くべき題材を収集しまとめる方法、そしてそれらをもとにして、具体的な文章へのアプローチの方法の習得を目指す。また、「文章表現」の力を養成するため、主に400字の文章作成の実践を行う。

授業の到達目標
　①書くことに対する抵抗感を払拭し、書くことが楽しく感じられる認識と感性とを養う。
　②アカデミックライティングの技術の初歩を習得し、レポートや論文に対応する文章力を身に付ける。
　③保育者として必要な文章表現のスキルを身に付ける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　①書籍、新聞等を読むことを心がけ、常に文章に触れるように努める。

　②折に触れ、感想や意見などを書き留める習慣を持つようにする。

評価方法
課題（30）レポート（70）を通じて総合的に評価する。

教科書	参考図書
『文章表現四00字からのレッスン』（梅田卓夫・ちくま学芸文庫）	『論理的な文章の書き方入門』（飯間浩明・ディスカバー21）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席しないように。

01	講義概要・「良い文章とはどのようなものか」
02	第一章文章表現入門-自分にしか書けないことを書く①（テキスト解説・小レポートを書く）
03	第一章文章表現入門-自分にしか書けないことを書く②（テキスト解説・小レポートを書く）
04	第一章文章表現入門-自分にしか書けないことを書く③（テキスト解説・小レポートを書く）
05	第二章ことばは自分の中にある-レッスン「最初の記憶」（テキスト解説・小レポートを書く）
06	第四章文章は「断片」によって書く①「メモ論」（テキスト解説・小レポートを書く）
07	第四章文章は「断片」によって輝く②「メモの効用」（テキスト解説・小レポートを書く）
08	第五章人間へのまなざし①-「私の出会った人物」（テキスト解説・小レポートを書く）
09	第五章人間へのまなざし②-「私を変えた言葉たち」（テキスト解説・小レポートを書く）
10	第六章　演技する言葉たち-「あの人への手紙」（テキスト味読・小作品を書く）
11	第七章　文章は「断片」によって書く-「断片論」（テキスト味読・小作品を書く）
12	第八章　何か捉えられないもの①-レッスン「学園の断片」（テキスト味読・小作品を書く）
13	第八章　何か捉えられないもの②-レッスン「私の手」（テキスト味読・小作品を書く）
14	第九章　想像・夢想・他者-レッスン「もう一人の自分」（テキスト味読・小作品を書く）
15	講義のまとめ（小レポートの評価を含めて）
16	

2022年度シラバス

科目名:教養数学	担当者:上原 隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校から高校までで学習した算数・数学の内容について、日常生活のどのような状況を数学で表すことができるのか、日常生活に関わるどのような問題を解決することができるのかということを考えながら、提示された問題を解くだけでなく、身の回りの現象・状況を自ら数式で表すことにも挑戦する。
※本授業は公務員試験の数的処理の対策も兼ねる。

授業の到達目標
・数学的な解法や論理的思考力を身につける【DP】
・身近な現象・状況を自ら数式で表すことや、数量遊びを開発することができるようになる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
「数学は人生に必要ない」と考える学生が多いが、数学は学校の授業や受験で必要なだけではなく、身近な現象を表したり、日常の問題を解決するために一生涯付き合っていく必要のあるツールであることを理解すること。そのうえで、身近な現象を数学で表現し、問題解決ができることがないかを日常の中から探す練習をする。

評価方法
授業への参加など平常点 30%、確認テスト 70%。

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は研究管理棟3階にある担当教員の研究室で受け付ける

01	授業のねらいの説明
02	判断推理1　証言から嘘つきを探す
03	判断推理2　命題と集合
04	判断推理3　関係の類推
05	空間把握　立体的なものの見方
06	数的推理1　三角形の性質
07	数的推理２　円の性質
08	数的推理３　数と式
09	数的推理４　速度と濃度
10	数的推理５　速度の計算の応用
11	数的推理６　割合、比率、損益の計算
12	数的推理７　場合の数
13	数的推理８　確率と期待値
14	資料解釈　表とグラフから読み取る力を身につける
15	確認テスト、まとめ
16	なし

科目名:保育の音楽Ⅰ	担当者:近藤 茂之・高田 伸子・赤松 みどり・早瀬 順子・堀ノ内 宏子・國井 真美・槌田 幸子・鈴置 育代・東島 佳子・小野 隆司・平野 玲美・高橋 恵理・青木 園恵	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育者に必要な音楽技能の一つであるピアノ実技と、保育現場で求められる子どもの歌弾き歌いを学ぶ。
Formsによりピアノ経験の有無や年数を調査し、初心者を含めた「ピアノクラス」または、経験者を対象とした「歌唱クラス」に編成する。担当教員による個別指導のもとに目標を定め、常時練習計画を立てながら学修を進め、毎回の課題と反省をTeams上にアップロードしたファイルに記入し、学期末に演奏の発表（確認テスト）を行う。

授業の到達目標
初心者を含めた「ピアノクラス」はバイエルの練習によってピアノ演奏の基礎力を身につけ、加えて子どもの歌弾き歌いを学修する。「歌唱クラス」は弾き歌いをできる限り多くの楽曲を学習する。課題（50選）は別途指示する。
いずれのクラスもこれらの学修によって保育者が現場で音楽活動を展開できるようになることを目標とする。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
自宅または下宿先にピアノを所有することを推奨する（鍵盤数の少ないキーボードではなく、88鍵を有する電子ピアノが望ましい）。代替授業に変更された場合には大学の許可を得て学内の練習室を使用することができる場合もあるが、念のため常に予習と復習ができる環境を整備すること。質問がある場合は専任まで問い合わせること。
練習時間は特に定めないが、与えられた課題を一定度クリアできるようになるまで、繰り返し取り組むこと。

評価方法
授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い30%　発表50%　平常点（出席状況など）20%

教科書	参考図書
レッツ・プレイ・ザ・バイエルPLUSピアノ（圭文社刊）、こどもの歌200（小林美実編：チャイルド本社）、随時配布するプリント他	担当教員よりその都度指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
予習と復習を怠らないこと。担当教員への礼節をわきまえること。日頃から様々なジャンルの音楽に接し、特に割引が有効な、特に実際の演奏を聴き感性を磨くことが望ましい。

01	実技クラス編成調査
02	レッスン授業Ⅰ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
03	レッスン授業Ⅱ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
04	レッスン授業Ⅲ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
05	レッスン授業Ⅳ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
06	レッスン授業Ⅴ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
07	レッスン授業Ⅵ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
08	レッスン授業Ⅶ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
09	レッスン授業Ⅷ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
10	レッスン授業Ⅸ、発表曲の決定
11	発表曲レッスンⅠ
12	発表曲レッスンⅡ
13	発表曲レッスンⅢ
14	発表前リハーサルおよびレッスン
15	演奏曲の発表（確認テスト）
16	

2022年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指して、保育の意義を学び、普遍的な子どもの原理・原則と今日の子どもを取り巻く環境に適した柔軟な保育のあり方について学んでいきます。授業の方法は、教科書を中心に基礎的な事項を読んで解説することと、ビデオや実例などをもとに保育の現状を伝えて行きます。授業毎に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をしてもらいます。また回収した課題（用紙）は翌週に押印もしくはコメントの上、返却します。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用します。

授業の到達目標
１　保育の意義について理解し、現代の保育の課題と目指すものを述べることができる。
２　幼稚園・保育所、認定こども園に関する諸制度を理解し、意見を述べることができる。
３　保育の歴史上の人物の実践と思想、保育の専門性について理解し、将来の保育者像を描くことができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
はじめて学ぶ保育原理（斎藤裕・吉見昌弘編　北大路書房）	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	保育の意義と現代的課題
03	幼稚園における諸制度
04	幼稚園教育要領
05	保育所における諸制度
06	保育所保育指針
07	幼稚園と保育所の比較
08	幼保一元化の流れ
09	認定こども園
10	保育内容（５領域とねらい、内容）
11	保育形態　－自由保育、一斉保育
12	保育形態　－設定保育、統合保育
13	子どもと自然の関わり
14	保育の歴史と思想　保育者の専門性
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:小栁 雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業は、保育士資格・幼２種免許状を取得するために、教育に関する基礎的事項について講義形式で学んでいく科目です。今後、皆さんは「教育を受ける側」ではなく「教育をする側」として現場に立つことになります。教育者（保育者）として行う教育の意味や目的、教育（保育）現場における自分たちの役割、また現代の教育を支えるシステムなどについて、この授業で学んでいきましょう（CP1-2）

授業の到達目標
①教育に関わる基本的な概念・理念について理解する（DP1）
②教育の歴史的変遷や思想を知る（DP1）
③我が国における現代の教育システムを理解する（DP1）
④現代の教育が抱える課題とそれに対する教育者（保育者）の役割を考えることができる（DP2）
以上の４点を本授業の到達目標とします。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能（DP1）
◎豊かな人間性・主体的行動力（DP2）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業にかかわる準備学修は必要ありません。
ただし事後学修として、配布テキストに示されている課題に毎回取り組んでください（所要時間約30分程度）。また、学んだことを復習し、関連事項や教育・保育にかかわる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしましょう。また、それらについて「自分自身の意見を持つ」ことができるようにしてください（1時間以上の取組が望ましい）。

評価方法
①第１回～14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回で実施する確認試験（60点）の合計点（200点）を総合評価します。このうち60％（120点）を本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布しますので毎回の授業に持参してください。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事項について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡などの必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋自分たちが受けてきた教育の振り返ろう
02	教育とは何か①－人間にとっての教育の必要性
03	教育とは何か②－「教えること」と「学ぶこと」の関係性
04	教育とは何か③－家庭教育と学校教育
05	教育とは何か④－現代における教育の意味と教育者（保育者）の役割
06	教育の重要な要素①－子ども観の変遷と教育を受ける権利の重要性
07	教育の重要な要素②－教育の「目的」「内容」「方法」の関係性
08	教育の重要な要素③－教育者（保育者）の専門性
09	教育および教育思想の歴史的変遷①－欧米
10	教育および教育思想の歴史的変遷②－日本
11	我が国の教育システムと制度①－就学前教育から高等教育までの仕組み
12	我が国の教育システムと制度②－公教育を支える制度と行政機関
13	教育を取り巻く現代的課題①－子どもの貧困と教育
14	教育を取り巻く現代的課題②－多様化が進む社会において今後必要とされる力
15	確認試験＋最終講義－これからを生きる教育者（保育者）として
16	なし

科目名:子ども家庭福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、児童や家庭への支援の実際を紹介しつつ、児童家庭福祉の複雑な制度を実践に即して理解を図ることができる。また、少子化が社会に与える影響と保育者の地域における役割を教授することが可能である。

子どもを取り巻く環境は時代とともに変化し、当然のことながら支援のあり方も変化します。昨今では児童虐待問題や子どもの貧困問題などが顕在化していますが、保育現場で相談援助が必要になった場合に必要な知識を、法律面、制度面を中心に講義します。

授業の到達目標
１．現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
３．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。５．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料やテキストの該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
ノートの点検、小レポート、受講態度20%、確認テスト80%

教科書	参考図書
子ども家庭福祉の形成と展開（勁草書房）2022,2	保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、穴埋め式のレジュメを配布します。A4版のフラットファイルなどを用意し、資料の整理に努めてください。

01	オリエンテーション、児童家庭福祉を学ぶ意義と目的
02	現代社会と児童家庭福祉
03	児童家庭福祉の歴史的展開
04	児童の人権擁護と児童家庭福祉
05	児童家庭福祉の法律と行財政
06	児童家庭福祉の実施機関・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と児童の健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス
11	社会的擁護
12	障害のある児童への対応
13	非行への対応
14	子ども・子育て支援と児童家庭福祉の推進
15	保育と児童家庭福祉、確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅰ	担当者:川上 知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。
講義（パワーポイント使用）を中心とするが、グループディスカッションなどを取り入れ、意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　子ども・家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な考察を行う。

授業の到達目標
社会的養護に関する基礎知識を習得する。(DP)
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。(DP)
子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各自、教科書を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献や新聞などで学生自身で情報収集を心がける。
特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。

評価方法
確認テスト：60%　レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%

教科書	参考図書
『社会的養護』成清美治・真鍋顕久（学文社）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	児童虐待問題の現状と法制度
03	児童虐待への対応と課題
04	性的虐待とDV
05	アタッチメント
06	社会的養護の役割
07	児童養護施設の現状と課題
08	事例①（グループディスカッション）
09	施設におけるケア実践
10	日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
11	事例②（グループディスカッション）
12	社会的養護の今後の動向
13	家庭（的）養護の意義と課題
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	まとめと確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:川上 知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
社会的養護の現状と課題、また適切な支援方法について事例から検討する。子ども・家族への個別対応のセオリーを学ぶ他、多職種連携を基盤とするチーム支援の実際と課題について理解を深める。
具体的な事例をもとに事例検討を行う。グループ討議、クラス討議を組み合わせながら意見交換を行い、事例に対する見立てと手立てを多角的に考えることで実践的な問題解決能力を養う。
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　子ども・家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な議論を展開する。

授業の到達目標
社会的養護における支援の実際を事例を通して体感する。
活発な意見交換を通して、多様な考え、価値観に触れ、事例を多面的に捉えられるようになる。(DP)
他者との協働（チーム支援）によって支援することの意義や必要なスキルについて学ぶ。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会的養護Ⅰで学んだことの復習を事前に行っておくこと。
事例の提示や問題提起を事前に行う場合があるが、それらについて各自でしっかり考えた上で授業に臨むこと。
「社会的養護」「児童虐待」関連のニュースは、こまめにチェックしておくこと。関連するニュースをテーマにして授業内でディスカッションを行う場合もある。

評価方法
確認テスト：60%　レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%

教科書	参考図書
なし（必要に応じてプリントを配布する）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	社会的養護の意義と専門職の役割
03	事例検討①（グループディスカッション）
04	事例検討②（グループディスカッション＋クラスディスカッション）
05	事例検討③（グループディスカッション＋クラスディスカッション）
06	事例の総括、社会的養護における多職種連携の課題
07	児童養護施設における治療的養育
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:吉田　真弓・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
この授業科目は、元幼稚園教諭の経験を踏まえ、保育者とは何か保育実践をもとに具体的に考えることができるようにする。保育者として子どもともに生活することを職業として選択するということがどういうことなのか自問自答しながら、保育者の役割、保育の専門性およびについて、保育所での実践体験を語ったり、実際の実践例や事例などを通して実践的に学ぶ。また、保育者であると同時に一人の人間として自分の生き方や考え方について常に省察することを意味づける。【AL】

授業の到達目標
保育者として子どもともに生活することを職業として選択するということがどういうことなのか自問自答しながら、保育者の役割、保育の専門性およびについて実践例や事例などを通して学び、「保育者になるという自覚を深める（DP）」。また、保育者であると同時に一人の人間として自分の生き方や考え方について常に省察することができるようにし、「保育者の役割について理解する（DP）」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　関連文献を前期に1冊は読むこと。子ども、教育､保育、家庭に関する新聞記事などに関心を持つ。保育者をめざすという自覚を持って授業に臨むこと。子どもとかかわることを積極的に行い、子どもへの理解を深める。

評価方法
定期試験50％、授業中の課題、小テスト30％　毎回の授業の振り返り20％

教科書	参考図書
子どもの未来をつくる教育者論・保育者論(わかば社)幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　子どもを取り巻く環境の変化や保育に関する社会の動きに関心を持ち､自ら調べたり考えたりするように努力すること。

01	授業の概要・方針
02	保育とは何か
03	保育者の役割・使命　保育者になるには
04	幼稚園、保育所の歴史、制度　認定こども園について
05	保育者の仕事と役割①　幼稚園教育要領、保育所保育指針　教育保育要領にみる役割
06	保育者の仕事と役割②　子どもと生活するうえで　子どもを観る目
07	保育者の仕事と役割③　職員、保護者、子ども、地域との関連について
08	保育の専門性①　子どもの発達を理解する0歳~3歳未満児
09	保育の専門性②　子どもの発達を理解する3歳児
10	保育の専門性③　　子ども発達を理解する4歳児
11	保育の専門性④　　子ども発達を理解する５歳児
12	保育の専門性⑤ 特別に支援が必要な子どもへの支援
13	保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者との連携
14	保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう
15	理想の保育者を見つけよう(まとめにかえて)
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:保育の心理学	担当者:小川 絢子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの発達と心理を理解し、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。授業の柱は以下の3点です。
①乳児期と幼児期の子どもの発達および心理、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習、③子どもの発達や学習における大人の役割。

授業の到達目標
この授業の目標は、子どもの発達や心理について、保育実践に必要とされる基礎的な知識を習得することです。特に、授業概要で述べた3つの観点について理解することを目標とします。
①乳児期と幼児期の子どもの発達および心理、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習、③子どもの発達や学習における大人の役割。（DP）また、日常的な子どもの姿から、子どもの発達や心の動きを感じ取る力を身に付けてほしいと思います。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から子どもに対する自分の関わりについて振り返り、授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分自身が子どもに関わった経験に基づき考察を行う等の時間を、15回の授業期間中に3回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。15回の授業期間中に3回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）、毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、確認テストの受験資格はありません。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション― 保育実践において保育の心理学を学ぶ意味
02	乳児期①― 運動機能および感覚機能の発達
03	乳児期②― 愛着と基本的信頼感の形成
04	乳児期④― コミュニケーションの発達
05	乳児期における生活・あそびと大人の役割
06	幼児期前半①― 1歳半の節目、乳児期から幼児期へ
07	幼児期前半②― 認知とことばの発達
08	幼児期前半③― 自己理解の発達
09	幼児期前半④― 対人関係の発達
10	幼児期後半①― 認知とことばの発達
11	幼児期前半②― 自己理解の発達
12	幼児期前半③― 対人関係の発達
13	幼児期における生活・あそびと大人の役割①
14	幼児期における生活・あそびと大人の役割②
15	授業のまとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:特別支援教育論	担当者:山下 直樹	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】障害児入所施設児童指導員　保育カウンセラー
本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障がいのある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。
本講義では、特別支援教育とは何かを理解することから始め、障がい児（者）教育の歴史や制度、障がいの種類と程度に応じた教育の基本的特性について、さらに、障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもの教育について学んでいきます。また、保育学生として障がい児（者）との望ましいかかわりを考えられるようになることを目標とします。

授業の到達目標
1. 障がいの概念について理解する。
2. 各障がいの種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。
3. 障がい児（者）とかかわる際の基本的態度を養う。
4. 保育学生として障がいのある子どもへの受容的行動について考え、主体的な学習意欲を高められるようになる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障がいを持つ子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
山下直樹『「気になる子」のわらべうた』　クレヨンハウス	授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学修が進んでいくと「障がいとは？」「人間とは？」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

01	オリエンテーション／障がいとは何か？
02	特別支援教育の概要とその理解
03	日本におけるインクルーシブ教育システムの構築
04	発達障がいのある子どもへの理解と具体的支援①自閉スペクトラム症
05	発達障がいのある子どもへの理解と具体的方法②注意欠如多動症
06	発達障がいのある子どもへの理解と具体的方法③限局性学習症
07	保護者や家族に対する理 保護者や家族に対する理解
08	就学支援と小学校との連携
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児理解の理論と方法	担当者:小川 絢子・岡本 加苗	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもの発達や学びを理解するための知識や技法を身に付け、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。グループ・ワークを行い、子ども理解や援助に対する多様な考え方を学びます。授業の柱は次の3点です。□
①保育・幼児教育における子ども一人ひとりの心身の発達や学びを、理論に基づいて理解する。②子どもを理解する上での基礎的な考え方や態度を学び、子ども理解に必要な技法を身につける。③子どもの理解に基づく保育者の援助や対応の仕方を理解する。

授業の到達目標
授業の目標は、以下の3点です。
①子ども一人ひとりの心身の発達や学びを、発達や学習の理論に基づいて理解する。（DP）②子どもの理解における基本的な態度を学び、子ども理解に必要な記録の方法を身につける。(DP) ③子どもの理解に基づき、個と集団、子どものつまづきや葛藤に対する保育者の援助や連携の仕方を理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
皆さん自身が子どもと接した経験や、他の授業・実習での学びについて振り返り、この授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分の経験に基づいた授業内容の考察を8回の授業期間中に2回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。8回の授業期間中に2回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。

評価方法
定期試験(30%)、授業参加態度（35%)、毎回の授業で提出してもらうワークシート（35%）の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、定期試験の受験資格はありません。

教科書	参考図書
授業内で指示します	幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	イントロダクション：保育における子ども理解の大切さ
02	子ども理解の方法1：観察・記録を活用した子ども理解
03	子ども理解の方法2：多様な記録の方法と省察
04	子ども理解の視点1：子どもの生活と遊び
05	子ども理解の視点2：集団における子どもの経験と育ち
06	子ども理解の視点3：子どもの葛藤やつまづきへの援助
07	子ども理解の視点4：発達の連続性と就学への支援
08	授業の総括・定期試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの保健	担当者:亀山 麻衣子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講義は、子どもの心身の健康や発達に応じた保育行動の基礎知識を習得するだけでなく、多様化する家族の在り方から子どもと家族の健康支援に関する知識も習得できる講義を行います。本講義は視聴覚教材も用いて、子どもの発達や多様化する家族の在り方に応じた保健行動がイメージできるよう、学習目標に沿った講義を実施します。また、講義内でグループディスカッションの時間も取り入れていきます。積極的に参加することで、より深い理解と気づきを得ることができます。

授業の到達目標
１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する
４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
○課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
本講義に関連する子どもの心身の健康や発達、保健活動、多様化する家族の在り方について、多くの書籍や新聞、何かしらのドキュメントなどに積極的に目を通すようにしてください。

評価方法
講義レポートの提出と出席態度（40%）、確認テスト（30%）、課題レポート（30%）で評価し、全体の60%以上で合格となります。出席態度については、講師が授業妨害と感じた行動や私語について、同日内に2回以上注意した場合に減点対象とします。

教科書	参考図書
新 基本保育シリーズ11　子どもの保健　（中央法規出版）	講義時に適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
わからないことをそのままにせず、すぐに調べる習慣を身に付けてください。また、それでもわからない場合や講師の見解を聞きたい場合には、講義前後に遠慮なく聞きに来てください。

01	オリエンテーション　~本講義の概要、評価方法と基準について~
02	子どもの心身の健康と保健の意義①　生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 子どもの心身の健康と保健の意義①　生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
03	子どもの心身の健康と保健の意義②　健康の概念と健康指標
04	子どもの心身の健康と保健の意義③　現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
05	子どもの心身の健康と保健の意義④　地域における保健活動と子ども虐待防止
06	子どもの身体的発育・発達と保健①　身体発育及び運動機能の発達と保健
07	子どもの身体的発育・発達と保健②　生理機能の発達と保健
08	子どもの心身の健康状態とその把握①　健康状態の観察および心身の不調等の早期発見
09	子どもの心身の健康状態とその把握②　発育･発達の把握と健康診断
10	子どもの心身の健康状態とその把握③　保護者との情報共有
11	子どもの心身の発達と保健　まとめと確認
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応①　主な疾病の特徴1
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応②　主な疾病の特徴2
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応③　子どもの疾病の予防と適切な対応
15	総括
16	なし

2022年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:吉田 真弓・彦坂 美希・嶌田 弘子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭・保育士：様々なクラス担任をし、子ども主体の保育について実践を通して検討していった。
幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本に基づいて、総合的に指導するという考え方を理解し、幼児の興味関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。また、教育・保育内容を実践に即して総合的にとらえることができるように、ＤＶＤ教材の活用、グループにおける話し合いや発表を取り入れ、具体的に学ぶ。担当者の実務経験を生かし、現場の様子も講義に反映し、具体的な理解を促す。

授業の到達目標
・乳幼児期の教育・保育においては、子どもの内面を理解することが一番の出発点であることを理解する。
・乳幼児から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージし、総合的な指導の在り方や、保育者の役割を理解する。(DP)
・乳幼児の興味や関心、発達に応じた具体的な指導の在り方を、事例を通して理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
現代の幼児を取り巻く社会状況や問題などに関するニュース・新聞等における情報に関心を向け、自分の意見や考えをもつようにしよう。

評価方法
授業への参加態度・授業の振り返り30%、提出物30%、筆記試験40%、による総合評価

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、認定こども園教育・保育要領　レジュメを配布します	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問や連絡等、メールまたはteamsで受け付けます。

01	オリエンテーション、保育内容総論で学ぶこと
02	保育の構造と内容理解①
03	保育の構造と内容理解②
04	保育内容の歴史的変遷
05	育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
06	幼稚園・保育所・認定こども園の1日を理解する
07	環境を通して行う保育とは
08	遊びを通しての総合的指導を理解する
09	家庭や地域との連携
10	幼小連携・接続について考える
11	保育における多文化共生
12	劇遊び活動を考える
13	プロジェクトメソッド入門
14	行事活動への総合的取り組み
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:保育の音楽Ⅱ	担当者:近藤 茂之・高田 伸子・赤松 みどり・早瀬 順子・堀ノ内 宏子・國井 真美・満田 有香・槌田 幸子・鈴置 育代・東島 佳子・小野 隆司・平野 玲美・高橋 恵理・青木 園恵	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育者に必要な音楽技能の一つであるピアノ実技と、保育現場で求められる子どもの歌弾き歌いを学ぶ。
ムードルまたはTeamsにおいてピアノ経験の有無や年数を調査し、第１回授業後にクラス編成を行いムードルまたはTeamsにて発表する。
担当教員による個別指導のもとに目標を定め、常時練習計画を立てながら学修を進め、毎回の課題と反省をTeams上にアップロードしたファイルに記入し、学期末に演奏の発表を行う。

授業の到達目標
保育の音楽Ⅰに引き続き、ピアノ初心者はバイエルおよび子どもの歌弾き歌いを学修する。一定の条件を満たした経験者は子どもの歌弾き歌いを中心に学修する。課題は別途指示する。バイエル教則本（～No.104まで）修了、および子どもの歌弾き歌いを学修し、着実に自分の「モノ」になるように努力する。
いずれのクラスもこれらの学修によって保育者が現場で音楽活動を展開できるようになることを目標とする。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅または下宿先にピアノを所有することを推奨する（鍵盤数の少ないキーボードではなく、88鍵を有する電子ピアノが望ましい）。代替授業に変更された場合には大学の許可を得て学内の練習室を使用することができる場合もあるが、念のため常に予習と復習ができる環境を整備すること。質問がある場合は専任まで問い合わせること。

評価方法
授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い30%　発表50%　平常点（出席状況など）20%

教科書	参考図書
レッツ・プレイ・ザ・バイエルPLUSピアノ（圭文社刊）、こどもの歌200（小林美実編：チャイルド本社）、随時配布するプリント他	ブルグミュラー25の練習曲（全音楽譜出版社）など、各種ピアノ曲。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
予習と復習を怠らないこと。担当教員への礼節をわきまえること。日頃から様々なジャンルの音楽に接し、特に割引が有効な、特に実際の演奏を聴き感性を磨くことが望ましい。

01	実技クラス編成調査ガイダンス
02	レッスン授業Ⅰ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
03	レッスン授業Ⅱ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
04	レッスン授業Ⅲ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
05	レッスン授業Ⅳ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
06	レッスン授業Ⅴ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
07	レッスン授業Ⅵ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
08	レッスン授業Ⅶ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
09	レッスン授業Ⅷ（ピアノ領域：バイエル、ピアノ曲）、弾き歌い（歌唱領域）
10	レッスン授業Ⅸ、発表曲の決定
11	発表曲レッスンⅠ
12	発表曲レッスンⅡ
13	発表曲レッスンⅢ
14	発表前リハーサルおよびレッスン
15	演奏曲の発表
16	
17	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
18	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
19	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
20	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
21	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
22	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
23	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
24	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
25	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
26	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
27	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
28	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典

29	発表前リハーサルおよびレッスン
30	課題曲の発表
31	楽典の筆記テスト

科目名:子どもと造形表現Ⅰ	担当者:高田 吉朗・高野 真悟・淺野 皆子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
平面分野と立体分野を基礎的に半分ずつ学ぶことで特定の分野の苦手意識を克服し様々な表現方法を学ぶ。各種画材や素材の特徴や可能性、また様々な材料や用具の適切な扱い方を学ぶ。

授業の到達目標
子どもにとっての造形表現のの意義を理解し、美的な生活づくりに向かう態度や感性を育む意味を平面と立体の造形体験から考える。造形活動で使われる材料や道具に関する基礎的な知識を学び表現の楽しさを味わう。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内に完成できなかった人は時間をみつけて制作すること。
常に子どもにどう伝えるかを想定しながら制作すること。
教科書を使った調べ学習。

評価方法
作品の評価(演習レポート、スケッチブック等を含む)40%、受講態度60%

教科書	参考図書
「造形活動おまかせガイド」明治図書	「保育に役立つ絵画あそび技法百科」ひかりのくに、「子供の表現力をグングン引き出す造形ハンドブック」明治図書、「0～５歳児の楽しさはじける表現あそび」明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
知的好奇心を養うことが大切です。柔軟な発想と興味の対象を追求する姿勢を心掛けましょう。

01	ガイダンス　簡単な実技体験を通し子どもにとっての造形表現の意義を理解する。（平面分野）
02	ガイダンス　簡単な実技体験を通し子どもにとっての造形表現の意義を理解する。（立体分野）
03	紙を使った表現①　道具の使い方（切る・貼る）ポップアップカード制作（平面分野）
04	子どもにとってのごっこ遊びに関する造形表現。「お面の制作1」（立体分野）
05	紙を使った表現②　道具の使い方（切る・貼る）ポップアップカード制作（平面分野）
06	子どもにとっての様々な紙を使った造形表現。「お面の制作２」（立体分野）
07	画材の使い方（色材）三原色で色遊び（平面分野）
08	平面的素材から立体をイメージする造形表現。「お面の制作３」（立体分野）
09	平面技法１（染め紙・バチック・デカルコマニー）（平面分野）
10	身近にある素材から発想する。「牛乳パックによる工作１」1（立体分野）
11	平面技法2（フロッタージュ・ビー玉転がし・スタンピング）（平面分野）
12	子どもにとっての立体工作の意義を理解する。「牛乳パックによる工作２」（立体分野）
13	平面技法３（スタンピング・コラージュ）（平面分野）
14	子どもにとっての動く玩具の意義を理解する。「牛乳パックによる工作3」（立体分野）
15	技法集仕上げ一冊にまとめる
16	子どもにとっての制作物を用いた表現による評価。（作品発表・鑑賞・講評）

2022年度シラバス

科目名:子どもと造形表現Ⅱ	担当者:高田 吉朗・高野 真悟・淺野 皆子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:この科目を履修する場合は、子どもと造形表現Ⅰの単位を修得していること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
平面分野と立体分野に分け、それぞれの領域において素材の特性を生かしながら効率よく造形表現の技能や知識を深める。

授業の到達目標
「子どもの造形表現Ⅰ」を踏まえた上で、造形表現の特異な学生の更なるスキルアップを目指す。子どもの感覚や感性を生かす環境や言掛けなど、実践的な事例を踏まえた造形表現を体験しながら理解を深める。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内に完成できなかった人は時間をみつけて制作すること。 常に子どもにどう伝えるかを想定しながら制作すること。
教科書を使った調べ学習。

評価方法
作品評価（演習レポート、スケッチブックを含む）40%
受講態度60%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針	「造形活動おまかせガイド」明治図書「保育に役立つ絵画あそび技法百科」ひかりのくに 「子どもの表現力をグングン引き出す造形ハンドブック」明治図書「０～５歳児の楽しさはじける表現あそび」明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
知的好奇心を養うことが大切です。柔軟な発想と興味の対象を追求する姿勢を心掛けましょう。

01	ガイダンス・子どもにとっての平面的造形表現の重要性を理解する。（平面分野）
02	ガイダンス・子どもにとっての立体的造形表現の重要性を理解する。（立体分野）
03	壁面制作１（グループ制作）調べレポート、グループ決め、話し合いなど（平面分野）
04	粘土の特質を知り、粘土の基礎的な技術を理解する。「やきものの基本1（土鈴）」(立体分野)
05	壁面制作2　前期の体験や調べ学習を活かした作品作り（平面分野）
06	様々な粘土の違いや造形表現の可能性を体験し理解する。「やきものの基本2」（立体分野）
07	壁面制作3（平面分野）
08	身体の動きや野外環境での造形表現。「凧」（立体分野）
09	壁面制作4　壁面に見たてたボードへの飾り付け、仕上げ（平面分野）
10	園生活を基に発想する造形表現。「紙を使ったお弁当１」（立体分野）
11	壁面発表・紙を使った表現１　トランスパレントペーパーを使った作品作り（平面分野）
12	平面的な紙から立体への造形表現。「紙を使ったお弁当2」（立体分野）
13	紙を使った表現２　トランスパレントペーパーを使った作品作り（平面分野）
14	立体的な構成による造形表現。「紙を使ったお弁当3」（立体分野）
15	「木を描こう」絵本からの実践　全員で大きな木の制作（平面分野）
16	子どもにとっての制作物を用いた表現による評価。（立体分野）

科目名:保育の今日的課題Ａ	担当者:平野　朋枝	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
地域における子ども支援・保護者支援」　平成17年1月の中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」では、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の方向性について論じられている。この授業では、その中で指摘されている「地域社会の教育力の低下」を取りあげて、現状と対応策を考える。答申では、現在の地域社会では、子ども同士が互いに影響し合って活動する機会の減少や様々な体験の機会の消失、遊び場の現象、人間関係の希薄化などが課題であることが示されているが、その実態と問題点について学ぶとともに、事例検討や意見交換を通して改善するための手立てを検討する。

授業の到達目標
人々の価値観や生活様式が多様化し、人間関係、特に地域における地縁的なつながりの希薄化や、過度な経済性・効率性の重視、大人優先の社会風潮などの社会の急激な変化により、子どもの育ちに様々な課題が生じている。例を挙げると、子どもの発達の問題、家庭・地域社会・保育施設の連携の困難さ、幼児教育から学校教育への接続、家庭の教育力の低下、社会的格差の影響など、保育施設だけでは解決できない課題が多く生じている。この授業では、それらの中から１つの課題を取り上げ、問題の把握、原因の探究、対応策を考えることにより、保育現場における様々な課題への対応力の向上を目指す。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修

評価方法
レポートその他の提出物による学習への関心・意欲等の評価（30%）、意見交換への取り組み状況による学習への関心・意欲等の評価（40%）、確認テストによる理解度評価（30%）

教科書	参考図書
適宜、指示する	適宜、指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	地域における子ども支援・保護者支援の必要性
02	地域社会の教育力の低下とは
03	地域における子育て支援の現状と課題
04	児童館の役割
05	児童館の活動の事例
06	プレーパークとは
07	プレーパークでの子どもとおとなの姿
08	確認テスト、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育の今日的課題B	担当者:上原 隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育・幼児教育の現場でも様々な面でICT化が進んでおり、保育者にもますますICTスキルが求められるようになってきている。この授業では、ICT化によって今日の保育現場がどのように変化しているのか、その実態と問題点について学ぶとともに、事例検討や意見交換を通してICT社会の中での保育者のあり方について検討する。

授業の到達目標
・今日の保育現場の実態とICT化による業務の効率化について理解する。
・保育・教育活動に有効にICT技術を取り入れるための考え方を身につける
・新しく現場に出ていく学生に求められるICTスキルを理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育現場ではどのようなICT技術が用いられているのか、またどのような技術が必要かを調べて考えてみること。

評価方法
レポートその他の提出物による学習への関心・意欲等の評価（30%）、意見交換への取り組み状況による学習への関心・意欲等の評価（40%）、確認テストによる理解度評価（30%）

教科書	参考図書
特になし	デジタル時代に向けた幼児教育・保育（明石書店）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学外での研修（園の見学）を行う場合は現地への交通費がかかります。
パソコンを使用することがありますので、指示があった日にはノートパソコンを持ってきてください。

01	保育現場におけるICTの導入とその背景
02	子どもの学びとICT
03	幼児教育・保育におけるICT技術の活用
04	園運営におけるICT技術の活用
05	現場から学ぶ　ICTを活用した教育・保育
06	現場から学ぶ　ICTを活用した園運営
07	ICT技術と保育現場のこれから
08	確認テスト、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:私たちの地球について考える	担当者:八幡 美保	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　地球温暖化や環境破壊で、地球環境がどのように変化しているのか実際に調べる。現状の問題点についてグループで議論しながら、実践できることを考え、自分自身で身近なところから何ができるのか実践に取り組み、周りにも広めていく。

授業の到達目標
　私たちの地球を守るために、何ができるのか自分の考えを周りの人たちに伝えることができるようにする。自分が実践できることを目標に掲げ実践できる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
地球温暖化とはどのような状況か、身の回りで取り組まれている温暖化対策について調べる。自分ができる地球にやさしい行動とは何か考える。授業内で実践活動を実施したのち、レポートの作成に取り組んでください。

評価方法
レポート(70%)、授業への参加態度（30%）今後の私たちの生活のあり方について提言書としてまとめる。

教科書	参考図書
	環境省DVD　地球環境問題がよくわかる本　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
SDGsとは何か、どのような取り組みがあるのか知る。自分ができる地球にとってやさしい行動とは何かを考える。

01	イントロダクション　　授業のねらい、目的、授業の概要、到達目標について理解する。
02	自分の生活の中で地球環境の破壊に影響していることについて考える①（グループワーク）□ 自分の生活の中で地球環境の破壊に影響していることについて考える①（グループワーク）
03	自分の生活の中で地球環境の破壊に影響していることについて考える②（グループワークのまとめを発表する）
04	環境省DVD　地球変動への挑戦　セクション１視聴
05	環境省DVD　地球変動への挑戦　セクション2視聴
06	DVD視聴から気づいたこと　考えたことをまとめる
07	自分の生活について考え、今できることをまとめてみる　実践開始（記録をつける）
08	地球変動を子どもたちにどう伝え、どのような生活を実践するのか　その方法をグループで考える
09	地球変動を子どもたちにどう伝え、どんな生活を実践するのか　その方法を発表する準備①
10	地球変動を子どもたちにどう伝え、どんな生活を実践するのか　その方法を発表する準備②
11	子どもに伝える方法、実践する方法についてグループ発表
12	私たちの地球を子どもと一緒に考えることについてプレゼンの準備をする
13	私たちの地球を子どもと一緒に考えることについてプレゼンの準備とまとめ
14	私たちの地球を子どもと一緒に考えることについて発表する
15	私たちの地球を考えることのまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:嶌田 弘子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　乳児及び1歳以上3歳未満児の姿を十分に認識し、乳児及び1歳以上3歳未満の子どもがが有能な存在であることを理解する等、乳児保育の基本について考える。講義を聞くことに留まらず、調べ学習や討論などを行い、乳児保育に対する自分の考えやあり方をまとめたりしながら、体験的に乳児保育の基本を学ぶ。

授業の到達目標
　保育現場における乳児及び1歳から3歳未満児の保育に関する基本的事項や保育のねらいや内容について考え、保育を実際に展開できるような乳児保育における基本的な保育の力(理論習得、保育の実際の方法、教材の研究等）を身につける。また、乳児保育についての自分の価値観を持つことができるようにする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　乳児、1歳以上3歳未満児への関心を深めるために、図書館などで、乳児保育の最新情報を入手する。自分がどんな保育がしたいのか、考えるために身近なところでボランティアなど自主的に行うようにする。
座学で学んだことは、必ず復習するようにして、最新的な知識や技術を習得できるように努力する。
主体的な学びを重視するので、小レポート作成や、調べたものを発表する時間を設定して、アクティブに学ぶ機会を多く取り入れる。

評価方法
課題レポート　50%　調べ学習のまとめや発表30%　授業の振り返り20%

教科書	参考図書
乳児保育の基礎と実践　大学図書出版社	保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
調べ学習や授業の振り返り、小レポートは、毎授業に提出

01	イントロダクション　授業の進め方
02	乳児保育とは何か
03	乳児保育の考え方の変遷と成立
04	乳児保育を支える基本　赤ちゃんの1歳までの育ちをふまえて 乳児保育の基本　　0歳児の子どもと保育
05	乳児保育の基本　　1歳児～3歳未満児の子どもと保育
06	生後0か月～6か月未満児について
07	生後6か月～1歳未満児について
08	1歳～2歳未満児について
09	2歳～3歳未満児について
10	乳児保育の実際と課題
11	1歳～3歳未満児保育の実際
12	乳児保育・1歳～3歳未満児の記録
13	乳児保育・1歳～3歳未満児の計画と評価
14	家庭・保育園・地域における子育て支援
15	まとめとこれからの乳児の保育
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの健康と安全	担当者:中島 志保	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの日々の健康観察や集団全体での健康支援を通し、保育における保健活動について学習します。関連するガイドラインに基づき保育における衛生管理や事故防止・安全対策・災害への備えについて場を想定しながら学習を進めます。また保育における養護技術・感染症対策・緊急時における対応について具体的に実践し対応を身に付けます。演習を通し、保育者間および他職種との連携についても考えていきます。

授業の到達目標
１．子どもの健康に関する個別対応と集団全体への健康支援について理解する。
２．保育の場を想定した事故防止や安全対策について述べることができる。（DP）
３．保育における養護技術、感染症対策、緊急時における対応について理解し行動を述べることができる。（DP）
４．演習を通し、保育者間・他職種との連携について理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
＜準備学習＞資料・参考図書・関連するガイドラインを読み、演習内容について理解する。技術演習については内容をイメージし、演習に臨めるよう準備する。子どもの健康と安全に関心を持ち、新聞やニュースなどから情報収集を心がける。1時間。※日頃から清潔な身だしなみ・手洗いを心がけ、自分自身の健康管理を行う。物品の整理整頓ができるようにしておく。
＜事後学修＞演習を振り返り、保育の場における対応や保育者の役割についてまとめる。1時間。※欠席した場合は授業内容について自己学習し提出する。

評価方法
演習への参加態度40%、課題レポート40%、確認テスト20%　　グループでの協調性・演習時の身だしなみも評価点に加味する。身だしなみが不適切な場合は演習に参加できない。

教科書	参考図書
授業で指示します。資料を配布します。	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、関連するガイドライン（授業時に説明します）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オリエンテーションで、演習内容（演習室の使い方も含む）・身だしなみ・必要物品・注意点等を詳しく説明します。授業開始時間には身だしなみを整えて着席すること。授業の前後の時間に質問等の対応をします。

01	オリエンテーション、手指衛生、バイタルサイン測定
02	保育における保健的対応（養護技術）
03	身体計測・発育評価
04	感染予防対策、感染性嘔吐物の処理
05	小児の救急蘇生（心肺蘇生法）
06	事故防止・安全対策 感染症対策、感染性嘔吐物の処理方法
07	個別的な配慮を要する子どもへの対応（アナフィラキシー発現時の対応）
08	災害への備え、確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅰ（事前・事後指導）	担当者:杉山 実加・鬼頭 弥生	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭・保育士
　教育実習Ⅰは、保育科の3つのディプロマポリシーの修得に向けた重要な実践学習の場であり、本科目はその実習を行うための準備や事後学習を目的とすることから、3つのディプロマポリシー全てに大きく関連する。履修系統図では「教育・保育実習」という分類に配置され、保育現場に触れることで保育職を目指す上での自己課題を認識し、主体的な学習の原動力を得ることを目指している。
　実習は、事前指導、実習、事後指導の三つから構成されている。この授業では、実習の概要について整理をするとともに、教育実習Ⅰに望むために必要な準備と心構えについて、講義や意見交換などから理解する。また、事前指導から実習、事後指導までを通して、自己の課題を明確にし、将来の進路選択に活かすことができるようにする。

授業の到達目標
(1) 学外実習の概要を知るとともに、「教育実習Ⅰの意義・目的を理解」する（DP）。
(2) 教育実習Ⅰの内容を理解し、「自らの課題を明確にする」（DP）。
(3) 教育実習Ⅰにおける「子どもへの関わり方、プライバシーの保護と守秘義務等について理解」する（DP）。
(4) 教育実習Ⅰにおける観察、参加、記録の方法や内容について理解するとともに、保育教材の作成や活用の仕方を身につける（DP）。
(5) 実習終了後の総括と自己評価により、新たな課題や学習目標を明確にする（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
〇豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　実習での活動は他の科目における学修内容が基礎となることから、全ての履修科目について復習を行うなどして知識・技能の定着を図っておく必要がある。また、日ごろから子どもに関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　授業への取り組み状況（40%）、提出課題（40%）、発表（20%）を総合して評価する。
　到達目標(1),(3)については、授業態度やコメントシート等による授業への取り組み状況から評価する。
　この科目は教育実習Ⅰを実施するのに欠かせない科目のため、全ての時間に出席することが単位認定の最低条件となる。

教科書	参考図書
「実習ハンドブック」、「実習の手引き」（名古屋短期大学実習委員会編）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　資料の提示やレポート等の提出をMoodleで行うことがある。この科目及び教育実習Ⅰについての質問や連絡がある場合は、まず教務課実習担当へ申し出ること。

01	学外実習の概要
02	教育実習Ⅰの意義と概要
03	教育実習Ⅰの内容と課題
04	実習の準備と心構え
05	実習記録の書き方
06	児童文化財について、保育教材の活用
07	付属幼稚園によるオリエンテーション
08	実習の総括と自己評価、課題の明確化
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅰ	担当者:杉山 実加・鬼頭 弥生	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育実習Ⅰは、保育科の3つのディプロマポリシーの修得に向けた重要な実践学習の場であり、3つのディプロマポリシー全てに大きく関連する。履修系統図では「教育・保育実習」という分類に配置され、保育現場に触れることで保育職を目指す上での自己課題を認識し、主体的な学習の原動力を得ることを目指している。実習は１年次の５月から１２月までの間で１週間、本学付属幼稚園において、観察と参加を中心として行う。この実習を通して、保育者の仕事の内容や子どもたちの姿を理解し、保育者としての自分の課題を確かめ、実習後の自覚的、自発的な学習に繋げるものとする。

授業の到達目標
① 子どもと共に生活する中で、「幼稚園生活を知る」（DP）。
② 子どもの発達過程と教師の援助を学ぶ（DP）。
③ 幼稚園教育に関する様々な知識・技術の必要性を理解する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習の事前指導を始めとして全ての専門科目が実習と関係する。これらの科目で学んだことをしっかりと身に付けておくこと。また、日ごろから体調管理に気をつけるようにする。

評価方法
　実習施設からの評価（80%）と実習記録・レポート（20%）により総合評価する。

教科書	参考図書
『実習の手引き』名古屋短期大学実習委員会『実習ハンドブック』、『実習の手引き』（名古屋短期大学実習委員会）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「教育実習Ⅰ（事前・事後指導）」の全回を受講していない場合は、実習を行えない。分からないことがある場合は、授業担当者または教務課実習担当へ申し出ること。

01	1日目（8時間） 　園長、副園長による実習オリエンテーション 　幼稚園の概要、環境の理解 2日目（8時間） 　観察実習（一日の生活の流れ、子どもの姿） 3日目（8時間） 　観察実習（教師の援助、子ども同士の関わり） 4日目（8時間） 　観察実習・参加実習（個別の子どもへの援助） 5日目（8時間） 　参加実習（個別の子どもへの援助、集団への働きかけ）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習ＩＡ（事前・事後指導）	担当者:上原 隆司・新沼 英明・八幡 美保・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習（施設）は、みなさんが初めて学外で行う実習です。また、社会福祉施設（乳児院、児童養護施設などの児童福祉施設や障害者施設等）ではいわゆる保育所保育や幼稚園での保育とは違った視点での実習が求められます。本科目では児童福祉施設等での実習が円滑に実施され、かつ、児童福祉専門職としての保育士になるための自らの課題を明らかにできるよう、事前・事後の学習を行います。

授業の到達目標
１）保育実習（社会福祉施設）の意義・目的を理解する。
２）社会福祉施設実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
３）実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
４）実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
５）実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
〇豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ボランティアに積極的に参加することにより、実践力を身につけること。
また、社会福祉施設は子どもや利用者の日常生活を支援します。よってみなさん自身の生活力が求められます。そのため、日頃から挨拶、礼儀等をないがしろにせず、社会人としての最低限の規律と責任感を持つようにしましょう。そのためには遅刻・欠席をしないことはもちろん、課題等に誠実に取り組む姿勢が必要です。

評価方法
授業の受講態度（３５％）、実習計画書・課題レポート等（４０％）、グループでの話し合いや課題に向き合う態度（３０％）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
福祉施設実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成版）	保育所保育指針解説書・保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
施設実習の事前指導では必要最低限の知識や実習に臨むための技術を学びます。自身が行く施設種別に応じたところでボランティアをすることをお勧めします。

01	オリエンテーション、施設の説明と希望調査（前期に実施）
02	施設実習の意義と目的
03	施設別取り組み①各施設の概要
04	施設別取り組み②実習の自己課題の書き方
05	実習日誌の書き方（実習日誌の意義と時系列の日誌の記載方法について）
06	実習のマナー等について
07	2年生による実習報告会（ 2年生の実習報告会（日程が前後する場合があります。決まり次第連絡します）
08	施設実習直前指導
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅰ（児童福祉施設）	担当者:上原 隆司・新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:名古屋短期大学保育科 実習細則の規定による		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育所ならびに施設の概要を整理し、実習の目的を理解する。
学内での授業の内容を踏まえ、保育現場において保育を体験的かつ実践的に学ぶ。

授業の到達目標
保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
すでに学んだ教材内容を踏まえ、子どもの保育、保護者との関係について学ぶ。
保育の計画、観察記録の仕方及び、自己評価について具体的に理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
付属幼稚園実習やボランティア体験などの気付きや学びを整理して自らの実習課題を立てること。
子どもの発達について整理し、わからないところを復習すること。
教材や教材の活用の仕方について考え、自分でできることを積極的に進めること。
実習の事前訪問を通して、事前に準備すべきことを確実に行うこと。
また、実習中は健康管理に留意するとともに、子どもや利用者の人権への配慮を十分に行うこと。

評価方法
実習園の評価（６０％）、実習に関連する課題（３０％）、実習の振り返りと自己評価（１０％）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
福祉施設実習の手引き	保育所保育指針解説書・保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習の実施（履修）に関する子細な事項は「名古屋短期大学保育科 実習細則」の規定による。

01	以下の内容について、学外の児童福祉施設で、8日間の宿泊形式の実習または10日間の通所による実習を実施する。 【施設等における実習内容】 ①　施設の役割と機能について知る（1日の流れ、役割と機能） ②　施設で生活する子どもの理解をする（子どもの観察と記録、個々の状態に援助やかかわり） ③　養護内容や生活環境（計画に基づいた活動や援助・子どもの心身の状態に応じた対応、子どもの活動と生活環境・健康管理と安全対策への理解） ④　計画と記録（支援計画の理解と活用。記録に基づく省察と自己評価） ⑤　専門職
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育基礎演習Ⅰ	担当者:上原 隆司・太田 昌孝・小川 絢子・鬼頭 弥生・小柳 雅子・近藤 茂之・嶌田 弘子・杉山 実加・高須 裕美・高田 吉朗・新沼 英明・平野 朋枝・山下 直樹・八幡 美保・吉田 真弓・吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
集団による学習や野菜の栽培などの自然活動・ゼミ旅行やゼミ合宿を行います。学生は、保育基礎演習に主体的に取り組み、挿画に交流や学修を行います。

授業の到達目標
（1）保育学生・社会人としての基礎的学修、生活態度及び感性を身につける。
（2）集団での学修を通し、役割と協力意識を高める。
（3）研究のための基礎能力の育成の3つの柱をもとに、「保育科セミナー」「個別ゼミ」「学内での芋などの植物の栽培」「合同・共同企画」「児童文化鑑賞会」「修了レポート」などの活動を通して、大学生としての、また保育者・社会人としてのいくつかの能力や態度を身につけていくことを目標とします。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加態度、発表内容、レポートなどを総合的に評価する。

教科書 適宜紹介します。	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
短い学生生活において保育者としてのあらゆる知識や技能を身につけるためには、毎回の授業への積極的参加が必須条件であるといえます。
基礎演習では保育者はもちろん、一人の社会人として自立するためには何が必要で、何を学べばいいのか考えていきます。単に教員から与えられた情報や課題をこなすだけでは十分ではありません。常に積極的な態度で自らを発信していくことが望ましいといえるでしょう。

01	保育科ゼミ・セミナーガイダンス
02	保育科セミナー（個別ゼミⅠ）
03	保育科セミナー（個別ゼミⅡ）
04	保育科セミナー（個別ゼミⅢ）
05	個別ゼミ（各ゼミごとに活動内容は異なる）
06	個別ゼミ（ゼミごとに図書館入門）
07	個別ゼミ(保育実践演習)
08	個別ゼミ（保育実践演習）
09	個別ゼミ（保育実践演習）
10	研究法入門Ⅰ（修了レポート作成のため）
11	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
12	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
13	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
14	個別ゼミ（修了レポートテーマ指導）
15	個別ゼミ（修了レポートテーマ登録）
16	

科目名:保育基礎演習Ⅱ	担当者:上原 隆司・太田 昌孝・小川 絢子・鬼頭 弥生・小柳 雅子・近藤 茂之・嶌田 弘子・杉山 実加・高須 裕美・高田 吉朗・新沼 英明・平野 朋枝・山下 直樹・八幡 美保・吉田 真弓・吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習

免許・資格:	開講時期	後期
	配当学年	1
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
集団による学習や野菜の栽培などの自然活動・ゼミ旅行やゼミ合宿を行います。学生は、保育基礎演習に主体的に取り組み、挿画に交流や学修を行います。

授業の到達目標
（1）保育学生・社会人としての基礎的学修、生活態度及び感性を身につける。
（2）集団での学修を通し、役割と協力意識を高める。
（3）研究のための基礎能力の育成の3つの柱をもとに、「保育科セミナー」「個別ゼミ」「学内での芋などの植物の栽培」「合同・共同企画」「児童文化鑑賞会」「修了レポート」などの活動を通して、大学生としての、また保育者・社会人としてのいくつかの能力や態度を身につけていくことを目標とします。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力
◎省察力・改善力
◎課題解決に向けた協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加態度、発表内容、レポートなどを総合的に評価する。

教科書 適宜紹介します。	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
短い学生生活において保育者としてのあらゆる知識や技能を身につけるためには、毎回の授業への積極的参加が必須条件であるといえます。
基礎演習では保育者はもちろん、一人の社会人として自立するためには何が必要で、何を学べばいいのか考えていきます。単に教員から与えられた情報や課題をこなすだけでは十分ではありません。常に積極的な態度で自らを発信していくことが望ましいといえるでしょう。

01	個別ゼミ
02	個別ゼミ
03	個別ゼミ
04	合同企画「研究法入門Ⅱ」
05	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
06	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
07	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
08	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
09	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
10	合同企画「2年ゼミ編成ガイダンス・進路を考える」
11	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
12	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
13	修了レポート提出
14	個別ゼミ（1年間のまとめ）
15	個別ゼミ（1年間のまとめ）
16	